

## 5章 みどりの取組

---

## 《取組の体系》

みどりの将来像の実現に向け、3つの基本方針に基づく施策の柱、基本施策、具体的な取組となる個別施策を展開します。

具体的な取組を進めるにあたっては、「みどりの指針」に位置づけられるみどりのチカラを理解し、その効果が十分に発揮されるよう工夫することで、みどりのチカラを上手に生かしたまちや暮らしの実現を目指します。

また、本市のみどりの課題を解決するため、「重点施策」を位置づけ、進行管理のために目標を定めています。

表 5-1 取組の体系

基本方針	施策の柱	基本施策 ★重点施策
1 暮らしを支え 豊かにする 朝霞らしいみどりを 整える	1-1 樹林地と農地の保全	(1) 樹林地等の担保性の向上★ (2) 良好な里山環境の維持・再生★ (3) 都市農地の保全
	1-2 水辺の保全	(1) 湧水の保全★ (2) 河川の保全
	1-3 公園の整備と管理	(1) 公園の整備推進★ (2) 公園機能の充実 (3) 公園の維持管理の充実★
	1-4 道路・河川のみどりの育成	(1) 街路樹・並木の整備と管理 (2) ウォーカブルな空間形成★
	1-5 公共施設・民有地のみどりの育成	(1) 公共施設のみどりの整備・管理 (2) 民有地のみどりの整備促進
2 みどりを支える 仕組みや担い手を 育て・広げ・つなげる	2-1 みどりの担い手の育成と連携	(1) みどりの担い手の育成 (2) 担い手の連携の拡充★
	2-2 みどりをしなやかに使う 仕組みづくり	(1) 公園等の管理を通じたまちづくり (2) 多様なニーズに対応するみどりの確保
	2-3 みどりの質の向上を誘導し 評価する仕組みづくり	(1) みどりのモニタリングの実施 (2) みどりの普及啓発の推進
	2-4 みどりの支援体制の強化	(1) 財源の確保と活用★ (2) みどり・公園分野における DX の推進★
3 みどりのある 暮らしを楽しむ	3-1 みどりのシティプロモーションの 展開	(1) みどりに触れ楽しめるイベントの開催 (2) 情報発信の強化と充実★
	3-2 みどりのある暮らしの実践	(1) みどりを楽しむ★ (2) みどりのボランティア活動への参加 (3) みどりの交流の拡大

「みどりの指針」との対応

※個別施策における「みどりの指針」との対応は参考資料集の施策の個表を参照してください。

個別施策

個別施策	「みどりの指針」との対応												
	1. みどりのチカラを上手に生かす指針	2. みどりを支える仕組みの指針	3. あさかのみどりの魅力を楽しむ指針	4. 防災拠点となるみどり	5. にぎわいや交流の場となるみどり	6. 身近な遊び場となるみどり	7. 健康づくりの場となるみどり	8. 暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	9. まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	10. 生き物の生息空間となるみどり	11. 地球温暖化の緩和に貢献するみどり	12. 都市の気温上昇を緩和するみどり	13. 健全な水循環を支えるみどり
①特別緑地保全地区の指定 ②保護地区・保護樹木の指定 ③文化財保護制度の運用 ④公有地化による樹林地等の確保 ⑤景観重要樹木の指定	●	●	●	●	●								
①里山保全活動の推進 ②里山管理ガイドラインの策定	●	●	●	●	●	●							●
①生産緑地・特定生産緑地制度の運用 ②遊休農地の活用促進 ③景観作物の栽培 ④災害時の都市農地の活用	●	●	●	●	●	●							●
①湧水地及び周辺環境の保全 ②雨水貯留浸透の推進	●	●	●	●	●								●
①荒川近郊緑地保全区域における河川環境の保全 ②黒目川・新河岸川・越戸川の環境保全 ③朝霞調節池内の湿地環境の保全	●	●	●	●	●								●
①身近な公園の適正配置 ②基地跡地公園の整備推進 ③内間木公園の整備推進	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
①防災機能の充実 ②バリアフリー・インクルーシブデザインの推進							●	●	●	●	●	●	●
①施設の維持管理の充実 ②維持管理性と美観を保つ公園等植栽管理指針の策定	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
①持続的な植栽のあり方に関する検討 ②街路樹の適正な維持管理	●	●	●	●	●	●							●
①河川沿いの散策路・親水広場の整備・管理 ②歩道のネットワーク化と管理 ③休息や健康づくりの場の整備			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
①公共施設の緑化と管理 ②公共施設の植栽管理指針の策定	●	●	●	●	●								●
①緑化支援制度の運用 ②まちづくりの制度を活用したみどりの確保	●	●	●	●	●	●							●
①プレーパークの推進 ②みどりの講習会等の実施 ③環境学習の実施 ④教育分野における農業体験の促進 ⑤食育の推進							●						●
①担い手のマッチング ②ボランティア活動団体の交流の促進 ③民間事業者等の参画の促進 ④農の担い手の育成													●
①公園サポーター制度の推進 ②市民や活動団体による朝霞の森の管理運営 ③みどりのリサイクルの推進				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
①市民農園の推進 ②市民緑地制度等の活用 ③公園ごとの利用ルールづくり	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
①グリーンインフラの実態調査の実施 ②市民協働の生き物調査による生物データベースの整備 ③みどりの市民アンケート調査の実施													●
①グリーンインフラの多面的効用の評価と公表 ②グリーンインフラの多面的効用に資する緑化指導 ③地域社会に貢献するみどりづくりの促進													●
①補助金等の活用 ②多様な財源の活用													●
①公園管理における DX の推進 ②WEB を活用したグリーンインフラの普及啓発							●	●	●	●	●	●	●
①みどり空間を活用したイベントの開催 ②里山環境の活用 ③農を通じた交流の場づくり					●	●	●	●	●	●	●	●	●
①みどりの情報発信 ②市民イベント情報の集約と発信							●	●	●	●	●	●	●
①家庭での緑化や菜園づくり ②農産物直売施設等の利用 ③地産地消の実践 ④みどりを生かした健康づくり ⑤みどりのイベントへの参加			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
①みどりのボランティア活動への参加 ②みどりのリサイクルへの参加 ③みどりに係る講習会への参加													●
①民間のみどりの公開 ②SNS を活用したみどりの交流													●

# 1 暮らしを支え豊かにする朝霞らしいみどりを整える

## (1) 樹林地と農地の保全

### 【基本施策】1 樹林地等の担保性<sup>32</sup>の向上 **【重点施策】**

本市には、武蔵野の面影を残す樹林地があります。都市における樹林地は、ヒートアイランド現象や地球温暖化を緩和するほか、身近な生き物のすみか、美しい景観、環境学習の場など、多くの役割を担っています。

しかしながら、本市の樹林地は減少傾向にあり、民有地の樹林地の割合は、昭和48（1973）年には市域の約5.7%を占めていましたが、令和5（2023）年には1.6%まで減りました。

市民の暮らしを支え豊かにする樹林地を保全するため、現在残されている樹林地を都市緑地法や朝霞市緑化推進条例などの法令に基づき、制度の活用を通して開発行為などを抑制することで将来に残します。

### ① 特別緑地保全地区の指定

市内に残されている良好な樹林地などのうち、特に保全が必要な場所については、特別緑地保全地区に指定し、開発行為などを規制することで、良好な樹林地を守ります。

#### 特別緑地保全地区

都市緑地法に基づき、都市の良好な自然環境を将来に残すために定める地区です。緑地保全の制度の中で最も規制が厳しく、建物の建築や宅地造成、木竹の伐採などが原則禁止され、現状のまま保存することが求められます。その代わりに、土地所有者には税制上の優遇措置や、自治体に対する土地の買取請求権が認められています。



代官水特別緑地保全地区



宮戸特別緑地保全地区

### ② 保護地区・保護樹木の指定

朝霞市緑化推進条例に基づく保護地区・保護樹木に指定し、市内の貴重な樹木や樹林地を保全して、地域のみどりの景観と生態系を維持します。

#### 保護地区・保護樹木

朝霞市緑化推進条例に基づき、特に保護すべき樹木や樹林地を保護樹木や保護地区として指定し、その保全を図る仕組みです。保護地区・保護樹木に登録されると維持管理に係る経費の一部を助成するために年に一回、固定資産税額や指定経過年数に応じた奨励金が交付されます。



郷戸の斜面林（竹林）

32 緑地が開発されず、将来にわたって確実に残るように、法律や制度によって保証されている状態のこと。

### ③ 文化財保護制度の運用

文化財保護法に基づき、自然豊かな史跡や天然記念物などの指定文化財を適切に保護・活用することで、歴史的・文化的価値のある緑地の保全を図ります。



県指定史跡 柁塚（ひいらぎづか）古墳



重要文化財旧高橋家住宅

### ④ 公有地化による樹林地等の確保

市内に残されている民有地の樹林地等については、市民や専門家の意見を取り入れ、必要に応じて市が土地を所有（公有地化）することで、大切なみどりを確実に守ります。

### ⑤ 景観重要樹木の指定

景観法に基づく景観重要樹木の指定を進め、地域のシンボルとなる樹木や景観上重要な樹木を保全して、美しい都市景観を守り育てます。



第1号 ケヤキ  
(朝霞市役所庁舎前緑地)



第2号 ケヤキ  
(まぼりひがし公園)

#### 景観重要樹木

景観法に基づき、地域の良好な景観形成に特に重要な役割を果たす樹木を「景観重要樹木」として指定し、その保全を図る仕組みです。

# 1 暮らしを支え豊かにする朝霞らしいみどりを整える

## 【基本施策】2 良好な里山環境の維持・再生 **【重点施策】**

わたしたちの暮らす場所の近くにある樹林地は、かつて人々が木を切ったり、落ち葉を集めたりするなど、生活に欠かせない恵みの宝庫でした。自然と共存しながら、人の手で守られてきた場所、それが里山です。

しかし、昭和30年代ごろから生活スタイルが変化し、里山から採れる木材や燃料資源の価値が薄れていきました。さらに人手不足も重なり、多くの里山が手入れされずに放置されています。手入れされなくなると、木が伸び放題になり、里山の中は暗く単調になります。その結果、明るい場所を好む植物や昆虫が姿を消してしまいます。また、暗いと下草が育たないため、土が流れやすくなります。雨水を蓄えるチカラが弱まり、土砂災害なども起きやすくなっているのです。

このような中、所有者の方々は、先祖から引き継いだ里山を残すために大変苦勞されています。里山を未来に残すためには、所有者だけに任せるのではなく、私たちの新しい考え方と協力が必要です。また、里山は単なる古い森ではありません。豊かな自然と私たちを災害から守る機能を併せ持つ、社会全体の大切な財産です。この宝物を次世代に引き継ぐために、みなさんの関心と協力が求められています。

市では、地域の宝物である里山を守るため、所有者やボランティア団体と協力し、里山の維持と再生を進めていきます。



ナラ枯れの被害

### ① 里山保全活動の推進

特別緑地保全地区などの樹林地等において、ボランティア団体と協力し、枯れた木の処理や、混み合った木を間引く間伐、草刈り、清掃活動などを継続的に行うことで、里山を美しく健康な状態に保ち、再生させていきます。

### ② 里山管理ガイドラインの策定

里山をどう手入れするかの方針を定めて、正しい管理方法をはっきりさせることで、市民ボランティアや関係者が同じ目標に向かって効果的に活動できるよう支援し、里山の自然をより豊かにしていきます。



市民ボランティアによる里山管理活動

## 【基本施策】3 都市農地の保全

本市のみどりの中で、最も広い面積を占めるのが農地です。農地は、新鮮な野菜を届けてくれるだけでなく、雨水を地面にしみ込ませて洪水を防いだり、地下水を蓄えたりする大切な役割を持っています。また、生き物のすみかになったり、災害時の避難場所になったりと、私たちが安心して暮らすために欠かせない存在です。

一方で、市内の農地面積の割合は、昭和48（1973）年の約29%から、令和5（2023）年には約10%へと減り続けています。暮らしを支え、心を豊かにしてくれるみどりの視点からも、この農地を守っていくことが求められています。都市化が進んだ本市では、農地が持つこのような多くの役割を維持していくため、都市農地の保全を進めます。

### ① 生産緑地・特定生産緑地制度の運用

生産緑地制度および特定生産緑地制度の運用により、都市部における貴重な農地を保全し、食料供給、防災、景観形成といった農地の持つ多面的な機能の保全を図ります。

#### 生産緑地・特定生産緑地制度

生産緑地制度とは、都市の農地を緑地として守るものであり、所有者は30年間農業を続ける条件で、税制の優遇が受けられます。30年経過後も、税制の優遇をさらに10年延長できる仕組みが特定生産緑地制度です。

通常、この指定には500m<sup>2</sup>以上の広さが必要ですが、朝霞市では条例で300m<sup>2</sup>以上へと条件を緩和しました。これにより、より多くの農地を生産緑地に指定できます。



生産緑地に指定される農地

### ② 遊休農地の活用促進

使われなくなって荒れてしまう農地（遊休農地）の発生を防ぎ、そうなってしまった農地は再び農業利用が行われるように取り組むことで、農地全体を守ります。

### ③ 景観作物の栽培

栄養分を含んだ豊かな土が風で飛んだり雨で流れたりしないように、作物を育てていない期間にも、肥料になる植物やきれいな花（景観作物）を植えることを進めます。



休耕期を彩る景観作物

### ④ 災害時の都市農地の活用

有事の際の避難空間や火災の延焼防止など、農地が持つ防災面の機能を活かすことで、地域の防災力を高め、市民の安全・安心な暮らしを支えます。

# 1 暮らしを支え豊かにする朝霞らしいみどりを整える

## (2) 水辺の保全

### 【基本施策】1 湧水の保全 **【重点施策】**

武蔵野台地の端にある本市には、斜面の下から湧き出る湧水があります。湧水は、武蔵野台地の厚い土（ローム層）と砂や石（砂礫層）が重なる特徴的な地質構造によって育まれ、古くから地域の豊かな自然を象徴してきました。

近年、都市化が進んで地面が舗装されるなど、雨水が地面にしみ込みにくくなっています。その結果、湧水の量が減るとともに、大雨の時には水があふれやすくなるなど、水害のリスクも高まっています。

この課題に対応するため、本市では、豊かな自然の証である湧水地を守るとともに、雨水貯留浸透施設の設置を進めます。これにより地下水を蓄え、湧水を守り、水害も防ぐ健全な水循環の実現を目指します。

### ① 湧水地及び周辺環境の保全

広沢の池、代官水などの湧水地を適切に管理するとともに、周辺の森林や農地を保全して湧水の元となる地下水を豊かにし、湧水環境を守ります。



湧水代官水

### ② 雨水貯留浸透の推進

朝霞市開発事業等の手続及び基準等に関する条例に基づき、雨水を貯めたり地面にしみ込ませたりする施設を整備して浸水被害を減らし、自然な水循環を取り戻します。

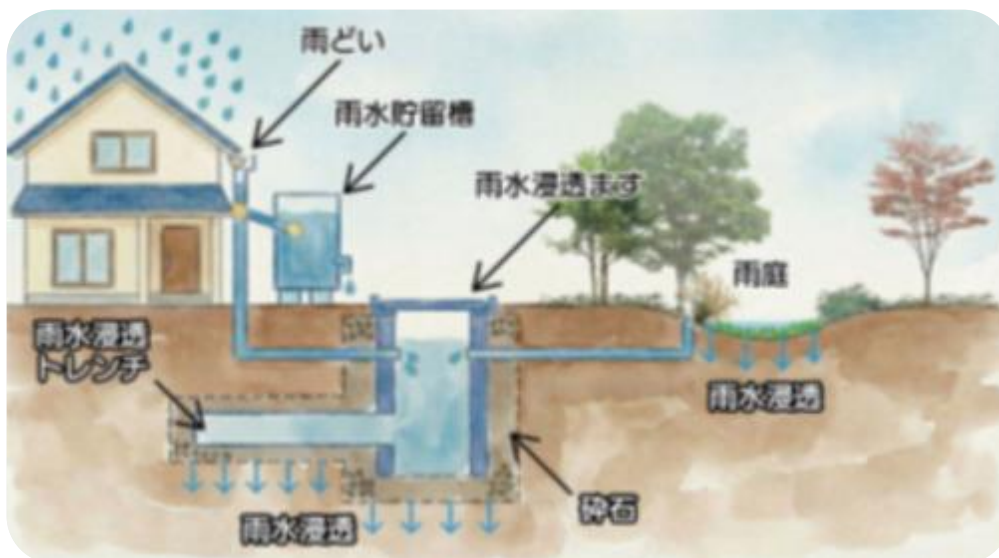


図 5-1 雨水貯留浸透施設のイメージ

## 【基本施策】2 河川の保全

荒川、黒目川をはじめとする豊かな水辺の空間は、都市化が進む中で市民の暮らしを支えるかけがえのない自然の財産です。

この貴重な水とみどりのつながり（回廊）を未来に引き継ぐため、河川環境を守るとともに、みんなの財産である水辺を活かし、安全で心地よい憩いの場、地域のにぎわいや交流を生み出すまちの魅力として活用していきます。

### ① 荒川近郊緑地保全区域における河川環境の保全

荒川クリーンエイドなどの活動を通じて、荒川近郊緑地保全区域の豊かな自然環境を守ります。



荒川クリーンエイド

### ② 黒目川・新河岸川・越戸川の環境保全

黒目川、新河岸川、越戸川の自然を守る活動を継続し、生き物に配慮した川づくりや、外来種対策、市民参加による清掃活動などを通じて、水辺の環境と景観をより良くします。



黒目川における清掃活動

### ③ 朝霞調節池内の湿地環境の保全

朝霞調節池内の湿地においては、国や市民団体と協力して希少な植物の保護活動を支援し、多様な湿地の生き物が暮らせる環境を守るとともに、自然観察の場としての活用に向けて検討を進めます。



朝霞調節池内のエノキの大木

# 1 暮らしを支え豊かにする朝霞らしいみどりを整える

## (3) 公園の整備と管理

### 【基本施策】1 公園の整備推進 **【重点施策】**

本市の市民一人当たりの公園面積は全国平均より大幅に少なく、歩いて行ける身近な公園がない地域もあります。この状況を変えるため、公園を増やし、場所の偏りをなくすことを目指します。

身近な公園については、すべての市民が歩いて気軽に遊びに行けるよう、バランスよく配置します。地域の中心となる公園は、多世代の交流が生まれるにぎわいの場とするだけでなく、災害時にまち全体を守る防災拠点として機能を強化します。また、老朽化した公園は、市民のニーズを反映させながらリニューアル・再編し、地域に愛される公園として魅力と機能を充実させていきます。

#### ① 身近な公園の適正配置

身近な公園が不足する地域をなくすため、住区基幹公園の整備を進めます。

また、老朽化した公園のリニューアルや再編を継続的に検討し、地域住民のニーズや利用状況に応じた機能の充実を図り、公園の魅力を高めて利用を促進します。



みやど公園

#### ② 基地跡地公園の整備推進

朝霞市基地跡地利用計画の着実な実行を図り、整備に際しては朝霞市基地跡地公園・シンボルロード整備基本計画〔改訂版〕に基づいて、これからの朝霞の憩いと交流の拠点となる公園づくりを目指します。



基地跡地の見学会の様子

#### ③ 内間木公園の整備推進

内間木公園拡張整備基本構想に基づき、地域の特性を活かした公園づくりや防災機能の整備を行い、市民の憩いやレクリエーションの場としての魅力を高めます。



内間木公園

## 【基本施策】2 公園機能の充実

公園を憩い・遊び・学びの場とするとともに、都市の防災力を高めるみどりの拠点となることを目指します。

地域防災計画に基づき、災害時には避難場所や支援物資を集める拠点として機能するよう、防災施設の計画的な設置を進めます。

また、多機能トイレなどのバリアフリー対応施設を積極的に導入し、新たに整備する公園やリニューアルする公園にはユニバーサルデザインを導入して、誰もが安全で快適に交流できる公園の実現を目指します。

### ① 防災機能の充実

朝霞市地域防災計画に基づきながら、公園への防災施設の設置を検討し、災害時に避難場所や物資集積拠点として機能する公園づくりを進めることで、都市の防災力を強化します。



防災用手押しポンプ  
(みやど公園)

### ② バリアフリー・インクルーシブデザインの推進

バリアフリー対応の公園施設を積極的に整備し、新たに整備する公園やリニューアルする公園にはバリアフリーやユニバーサルデザインを導入して、誰もが安全で快適に利用できる環境を整えます。



段差のないデザイン  
(みやど公園)



車いすのまま花植えができる花壇  
(まぼりひがし公園)

#### バリアフリー／ユニバーサルデザイン／インクルーシブデザイン

バリアフリーは、段差の解消など、高齢者や障害者にとっての物理的・心理的な障壁を取り除く考え方です。対してユニバーサルデザインは、年齢や障害の有無にかかわらず、最初からすべての人が使いやすいように設計する考え方を指します。

さらに近年重視されるインクルーシブデザインは、これまで利用が難しかった人々の声を計画段階から取り入れ、多様なユーザーと共に作り上げる考え方です。これらを組み合わせ、誰もが自分らしく過ごせる公園づくりが求められます。

# 1 暮らしを支え豊かにする朝霞らしいみどりを整える

## 【基本施策】3 公園の維持管理の充実 **【重点施策】**

公園を安全に、そして気持ちよく利用し続けられるよう、維持管理の充実を目指します。公園施設の安全点検を徹底し、施設を長持ちさせるように遊具や休憩所などの修繕・更新を計画的に進めます。こうして、施設を長く安全に利用できるようにするとともに、一度に大きな修繕費用がかからないように工夫し、財政負担を減らします。

また、公園のみどりをより美しく、より安全に保つための植栽管理指針を策定し、適切な樹種の選定と効率的な手入れを通じて、豊かなみどりと季節を感じられる質の高い緑地空間をつくります。これらの取組により、市民生活に安心と潤いをもたらす公園として維持していきます。

### ① 施設の維持管理の充実

公園施設の安全点検を徹底し、朝霞市公園施設長寿命化計画に基づきながら計画的な修繕・更新を行い、施設の安全性を確保して、長期的な利用を可能にします。



遊具の保守点検の実施



遊具の改修  
(島の上公園のロング滑り台)

### ② 維持管理性と美観を保つ公園等植栽管理指針の策定

公園などにおける植栽管理指針を策定し、管理の手間を減らすことと美しさを保つことを両立させて質の高い緑地空間をつくり、みどりの健康を長く保ちます。



図 5-2 植栽管理のイメージ

## (4) 道路・河川のみどりの育成

### 【基本施策】1 街路樹・並木の整備と管理

街路樹や並木を、都市の顔となる美しい景観づくりや夏の暑さをやわらげる大切なみどりです。しかし、老木化や根が伸びて歩道を傷める根上がりといった管理上の課題が生じています。

今後の道路整備においては、安全で快適な道路空間を実現するために、樹木が将来にわたり元気に育つための持続的な植栽のあり方を検討し、長期的な視点での効率的な維持管理を目指します。また、街路樹管理計画の策定に向けた検討を進めながら、計画的かつ適切な手入れを続け、安全で美しい街並みをつくっていきます。

#### ① 持続的な植栽のあり方に関する検討

持続的な植栽のあり方について検討し、街路樹や並木を健全に育て、長期的に効率的な管理が行えるようにします。



シンボルロードにおける  
樹木管理の勉強会風景

#### ② 街路樹の適正な維持管理

街路樹管理計画の策定を検討するとともに、街路樹の適正な維持管理を進め、安全で美しい街路景観を育てます。



イチョウ並木



公園通りのケヤキ並木

# 1 暮らしを支え豊かにする朝霞らしいみどりを整える

## 【基本施策】2 ウォーカブルな空間形成 **【重点施策】**

これまでのまちづくりは自動車中心に考えられてきた傾向があり、誰もが安全で快適に移動し、気軽に休める場所が不足していました。今後のまちづくりにおいては、ひと中心の視点に立ち返り、居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成を目指して、ウォーカブル<sup>33</sup>な空間づくりを進めます。黒目川沿いの散策路やまちなかの歩道を居心地の良い空間として充実させるために、誰もが安心して歩けるよう安全を確保し、ベンチや広場を設けることで、立ち止まって休憩したり、地域の人と交流したりできる場所をつくります。これにより、市民の健康づくりとまちのにぎわいを生み出します。

### ① 河川沿いの散策路・親水広場の整備・管理

黒目川・新河岸川沿いを中心に、散策路や親水広場の整備・管理を継続し、市民が水辺に親しみ、憩い、健康増進を図れるウォーカブルな空間をつくります。

### ② 歩道のネットワーク化と管理

歩道のネットワーク化と適切な管理を継続し、安全かつ快適に移動できる歩行空間を確保します。

### ③ 休息や健康づくりの場の整備

まちなかベンチ、ポケットパーク、健康遊具の設置などを通じて、市民が気軽に休息し、健康づくりに取り組むことができる場を整備し、都市の快適性を高め、健康増進を図ります。



ウォーカブルな空間整備のイメージ  
(駅西口富士見通線)



B.B.SQUARE (朝霞駅南口駅前通りの公共空間)



快適に散歩やジョギングができる  
シンボルロード

33 居心地が良く歩きたくなるまちのこと。車中心ではなく、ベンチで休んだり、安心して散歩や買い物ができたりする、ひとを中心とした空間づくりを指します。

## (5) 公共施設・民有地のみどりの育成

### 【基本施策】1 公共施設のみどりの整備・管理

みどりは、豪雨や暑さへの対策、生き物のすみかとなるグリーンインフラであり、安全で快適なまちづくりの土台となるものです。公共施設の緑化は、こうしたまちづくりをリードする重要な取組です。

公共施設の緑化では、みどりの持つ多くの役割を長く発揮させることが重要です。公共施設にある花壇などが、地域住民が協力して守り育てる活動の場となることで、みどりのあるコミュニティ活動が活発になることを目指します。これにより、管理の担い手を創出し、みどりが持つ多様な機能を長期にわたって発揮させます。

#### ① 公共施設の緑化と管理

市役所、保育園、公民館、学校など、様々な公共施設の緑化を進め、適切な管理を行うことで、美しい景観づくりや、夏の暑さ対策などを進めます。

#### ② 公共施設の植栽管理指針の策定

公園の植栽管理指針を策定する際には、公園以外の公共施設での管理についてもあわせて検討して、公共施設全体で質の高い緑地空間をつくり、みどりの健康を長く保ちます。



花の池テラス（市役所）



校舎の緑化



みどりのベンチ（北朝霞駅東口広場）

# 1 暮らしを支え豊かにする朝霞らしいみどりを整える

## 【基本施策】2 民有地のみどりの整備促進

快適なまちづくりを進めるためには、市の広い範囲を占める民有地の緑化が欠かせません。そのため、市民や事業者のみなさんが、進んで質の高いみどりを増やせるような仕組みが必要です。

本市では、戸建て住宅などへの緑化支援を行うほか、一定規模以上の開発事業においては、条例等に基づき、グリーンインフラの整備を促します。これらを通じて、自然な水のめぐりを取り戻したり、ヒートアイランド現象を和らげたり、地域の生き物を守ったりするなど、みどりが持つ多くのチカラが発揮されるよう検討を進めます。

### ① 緑化支援制度の運用

生け垣をつくる際の補助金などの制度を適切に運用し、民有地の緑化を後押しして、まち全体のみどりの量を増やし、住みよい環境をつくります。



図 5-3 生け垣等設置奨励補助金

※生け垣や緑化フェンスの設置等をご検討の方は、工事をする前に、お気軽にお問い合わせください。

### ② まちづくりの制度を活用したみどりの確保

まちづくりの制度を積極的に活用し、民間による開発とあわせて緑地が確保されるよう促し、計画的に都市の緑化を進めます。



道路のみどりと調和した集合住宅の緑化



ベンチが設置された集合住宅の緑化空間

## 補助金の対象となる生け垣の設置イメージ



## 生け垣緑化の取組のご紹介

市の緑化支援制度を利用して、生け垣などの緑化に取り組んだ事例をご紹介します。



植栽時



1年後



植栽前



植栽後

## 2 みどりを支える仕組みや担い手を育て・広げ・つなげる

### (1) みどりの担い手の育成と連携

#### 【基本施策】1 みどりの担い手の育成

都市のみどりは、ヒートアイランド現象の緩和や快適な環境づくりに欠かせないグリーンインフラです。これらのみどりを守り育てるために市民ボランティアが大きな役割を果たしていますが、高齢化や人手不足が大きな課題となっています。このままでは里山や公園のみどりを維持することや、子どもたちを見守るコミュニティの維持が難しくなります。この状況を乗り越えるため、市民一人ひとりがみどりのまちづくり活動に意欲を持って参加したくなるような環境を整えていきます。

#### ① プレーパークの推進

プレーパークの活動を広げて、こどもの居場所づくりを進め、子どもたちが自然の中で自由に遊び、育つ場を充実させます。



プレーパークの活動風景

#### ② みどりの講習会等の実施

専門家を招いた勉強会などを開催し、みどりへの関心や知識、技術を高めてみどりの担い手を育てます。

#### ③ 環境学習の実施

学校での環境教育や子どもエコクラブの活動などを支援し、子どもたちが環境問題への理解を深め、環境保全への意識を育てる機会をつくります。

#### ④ 教育分野における農業体験の促進

学校教育の中で農業体験の機会を設け、子どもたちが食や農業への理解を深め、自然との触れ合いを通じて豊かな心を育む機会をつくります。



黒目川の水質調査

#### ⑤ 食育の推進

食育を進め、市民一人ひとりが食に関する正しい知識と選ぶ力を身につけ、健康的な食生活を送れるようにするとともに、都市農業の大切さを伝えます。

## 【基本施策】2 担い手の連携の拡充 **【重点施策】**

都市のみどりを維持し、その機能を十分に発揮し続けるためには、行政の力だけでなく、市民、民間事業者、農業者など、様々な人や団体が協力し、それぞれの持つ知識と経験、意欲やアイデアを生かすことが必要です。

このため、市では活動団体と、手入れに困っているみどりの空間のマッチングを図り、管理を効率化するとともに市民活動を活発にします。また、ボランティア団体同士の交流を促し、情報や技術を共有して活動の質を高めます。さらに、飲食店などを公園内に設置して収益を公園管理に充てる制度などを活用し、民間事業者とも協力して公園の魅力を高めるとともに、都市農業を支える組織を支援します。

### ① 担い手のマッチング

手入れが行き届かないみどりの空間と、保全活動を行う市民団体を結びつけ、その維持管理を効率的に行うとともに、市民活動を活発にします。

### ② ボランティア活動団体の交流の促進

生物多様性市民懇談会や緑地保全の勉強会などを開催し、ボランティア団体同士の交流を深め、情報共有と連携によって、活動の質を高めるとともに、活動が継続的に行われるように支援します。

### ③ 民間事業者等の参画の促進

公募設置管理制度（Park-PFI）などを導入して、民間事業者の参加を促し、様々な人たちと協力して、みどりのまちづくりを進めます。

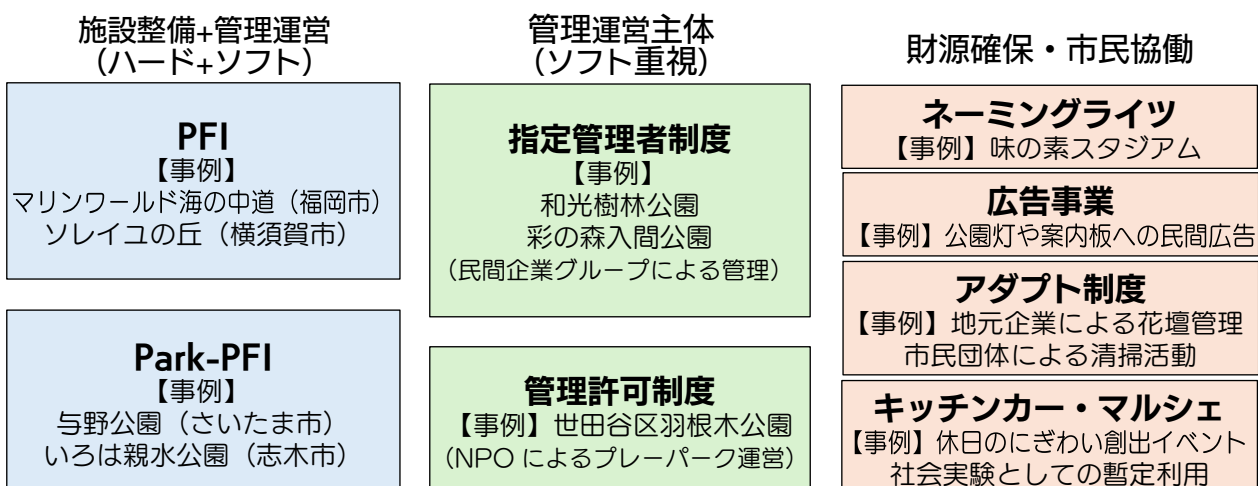


図 5-4 民間の活力を生かした公園整備・管理の手法

### ④ 農の担い手の育成

農業者団体や後継者組織の活動を積極的に支援し、これからの農業の担い手を育てます。

## 2 みどりを支える仕組みや担い手を育て・広げ・つなげる

### (2) みどりをしなやかに使う仕組みづくり

#### 【基本施策】1 公園等の管理を通じたまちづくり

私たちの暮らしや社会が急速に変化する中で、公園に求められる役割も大きく変わっています。公園は、単に憩う場であるだけでなく、安心安全な都市の基盤として、また、人々が出会い新たな活動が生まれるまちづくりの拠点となることが期待されています。こうした変化に対応するため、これからの公園管理においては、行政が一方向的に管理するのではなく、市民の自由な発想や活力を最大限に活かし、しなやかに公園を使いこなすことが求められます。本市では、この考え方にに基づき、市民と協力した公園管理体制を強化し、公園などを生かしたまちづくりを進めます。

#### ① 公園サポーター制度の推進

公園管理団体（通称：公園サポーター）制度を進め、市民ボランティアによる公園の清掃、花壇の手入れ、見守り活動などを後押しし、市民と協力した管理体制の構築を図ります。また、こうした活動を通じて、公園への愛着を育みます。



市民ボランティアによる花植え

#### ② 市民や活動団体による朝霞の森の管理運営

基地跡地の一部である暫定利用広場（通称：朝霞の森）において、市民と行政が協力して管理運営を続け、市民のニーズに応じた広場の活用と、地域コミュニティの活性化を図ります。



朝霞の森秋まつり

#### ③ みどりのリサイクルの推進

落ち葉の利用や剪定した枝などのリサイクルを進めるなど、緑地管理から出る資源を有効に活用して、循環型社会づくりに貢献するとともに、環境への負担を減らします。



ウッドチップの活用



落葉プール

## 【基本施策】2 多様なニーズに対応するみどりの確保

近年の暮らし方や働き方の変化に伴い、身近な公園や緑地への期待が高まっています。しかし、みどりの空間は未だ十分に活用されておらず、市民の多様な要望に応えられていない現状があります。都市のみどりは単なる風景ではなく、遊び、食育、健康、交流、そして防災に欠かせない、大切な資源です。このような背景を踏まえ、公園をはじめとする地域にある身近なみどり空間について、多様な市民の想いを受け止め、市民生活に生かすための取組を展開します。この取組にあたっては、行政だけでなく、市民、企業、団体が協力し、暮らしの利便性と豊かさの向上を目指します。

### ① 市民農園の推進

市民農園を整備し、利用できる機会を広げることで、市民が気軽に農業体験を行える場を提供し、食育の推進、健康増進、地域社会の活性化を図ります。

### ② 市民緑地制度等の活用

市民緑地制度や管理協定、自然共生サイトの認定等、土地の特性に合わせた多様な手法の活用を検討します。あわせて、民有地の保全や市民への開放、生物多様性の確保に向け、みどり法人等と連携した持続可能な管理体制についても検討します。

表 5-2 みどりの守るための多様な選択肢（本市において実績のない制度）

制度名	概要
自然共生サイト	民間の緑地、里山や公園など、生物多様性が守られている場所を国が認定する制度です。自然保護区と同等に生き物の大切な生息地として評価されます。
市民緑地認定制度	民間の土地所有者が、自分の土地をみんなが利用できる緑地として開放する仕組みです。市がその計画を認定し、緑地の整備や管理をサポートしてくれます。
市民緑地契約制度	土地の所有者が市などに土地を貸し出し、地域住民が利用できる緑地として管理してもらう制度です。協力すると、税金の優遇措置などが受けられます。
緑地保全地域制度	豊かな自然環境を守るため、特に重要な場所を指定して開発などを制限する制度です。木を切ったり建物を建てたりする行為が厳しく規制されみどりを守ります。
管理協定制度	緑地の所有者が自分で手入れをするのが難しい場合に、市や NPO などが代わりに管理を行う協定を結ぶ制度です。緑地が荒れるのを防ぎ良好な状態に保ちます。
みどり法人制度	緑地の保全や緑化活動を行う NPO 法人などを、市が公的に位置づける制度です。民間団体が主体となって、みどりを守り育てる活動に取組やすくなります。

### ③ 公園ごとの利用ルールづくり

公園ごとの利用ルールを柔軟に定めたり、見直したりすることで、公園の多角的な活用を促進し、地域資源の有効利用と市民の利便性向上を図ります。



ワークショップの風景

## 2 みどりを支える仕組みや担い手を育て・広げ・つなげる

### (3) みどりの質の向上を誘導し評価する仕組みづくり

#### 【基本施策】1 みどりのモニタリングの実施

持続可能なまちづくりを進める上で、都市のみどりは、私たちの生活を守り、豊かにする欠かせない資源です。みどりは、洪水被害や暑さを和らげ、多くの生き物を育み、日々の暮らしに潤いを与えてくれます。この自然の恵みを未来へ確実につなぐため、本市のみどりが本来のチカラを発揮できているか、その質を正しく把握する仕組みを導入します。みどりのモニタリングでは、専門的な実態調査に加え、市民と協働した生き物調査や市民の声を聞くアンケート調査を通じて、みどりの客観的な状態と市民の評価を明らかにし、その結果をわかりやすく公開しながら、今後のまちづくりに生かしていきます。

#### ① グリーンインフラの実態調査の実施

計画改定時などに、みどりの現況調査やグリーンインフラの分析を実施します。これにより、都市のみどりの現状と課題を正しく把握し、効果的な計画づくりや対策につなげます。

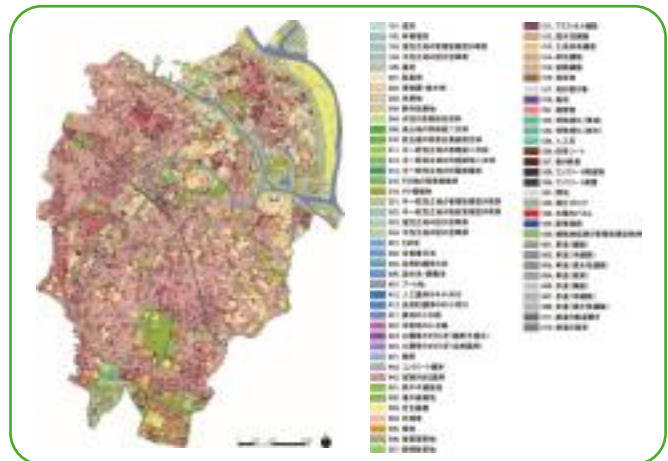


図 5-5 朝霞市グリーンインフラマップ

#### ② 市民協働の生き物調査による生物データベースの整備

市民参加型の生き物調査を継続しつつ、今後は生き物を発見した場所の位置情報を記録できるデータベースの新たな整備を検討します。これにより、生物多様性の現状を把握し、環境学習やまちづくりへの活用を目指します。



図 5-6 あさか生き物調査 2025

#### ③ みどりの市民アンケート調査の実施

計画改定時などに、市民アンケート調査を実施します。みどりに対する市民の意識や要望を把握し、それらを計画に反映させることで、市民の想いに寄り添ったみどりのまちづくりを進めます。

## 【基本施策】2 みどりの普及啓発の推進

私たちは今、地球温暖化や自然災害等のリスクに直面しています。こうした時代において、まちの強さと快適さを高めるための知恵の一つが、自然のチカラを活かしたグリーンインフラの考え方です。公園や街路樹、身近なみどりの空間は、単なる憩いの場ではありません。夏の暑さを和らげ、雨水を地下に戻し、災害時の被害を最小限に抑えるなど、私たちの暮らしを支える大切な役割を持っています。こうしたみどりの価値を共有し、地域全体で育む文化をつくるため、みどりの大切さを伝える活動を積極的に進めます。この取組を通じて、朝霞の豊かな自然を次世代につなぎ、安全で持続可能なまちづくりを実現していきます。

### ① グリーンインフラの多面的効用の評価と公表

ウェブサイト等を通じて、グリーンインフラが持つ多様な効果を分かりやすく紹介します。みどりがどのような役に立っているのか、その価値を正しく伝えることで、市民や民間事業者のみどりに対する理解を深め、緑化活動への参加のきっかけづくりを行います。

### ② グリーンインフラの多面的効用に資する緑化指導

建物をつくる際などの緑化の指導において、防災や環境、景観など、グリーンインフラの効果を高める工夫を促します。これにより、災害に強く、持続可能なまちづくりに貢献します。

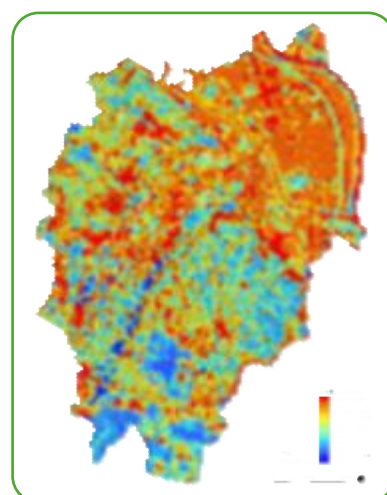


図 5-7 水循環の評価例

### ③ 地域社会に貢献するみどりづくりの促進

環境への貢献や生物多様性を守る取り組みに対する、認証・表彰制度の活用を広めます。民間事業者や市民による素晴らしい緑化活動を後押しし、地域社会全体でみどりを大切にする文化を育みます。

表 5-3 主な緑地・環境認証制度一覧

制度名	概要
TSUNAG 認定	国土交通省が行っている新しい制度。緑の質や脱炭素への貢献を評価し、認定されると税制優遇などの支援が受けられます。
SEGES	民間の緑地が社会や環境にどう貢献しているかを評価。日々の丁寧な維持管理や活動の質が認定されます。
ABINC 認証	生物多様性に特化した認証制度。生き物が住みやすい環境か、生態系のバランスを重視して審査します。
自然共生サイト	民間や自治体を守る自然を国が認定する制度。国際目標である 30by30 に貢献する区域として登録されます。
JHEP 認証	生物多様性の保全への貢献度を数値化し、土地利用や緑地の環境価値を客観的・定量的に評価、認証する制度です。
CASBEE	建物物の環境性能で評価し格付けするシステム。省エネだけでなく、敷地の緑化や生き物への配慮も総合的に評価されます。

## 2 みどりを支える仕組みや担い手を育て・広げ・つなげる

### (4) みどりの支援体制の強化

#### 【基本施策】1 財源の確保と活用 **【重点施策】**

快適で安全なまちづくりに、公園の整備やみどりの保全は欠かせません。しかし、限られた予算の中で、みどりを守り育てる取組を続けていくことは簡単ではありません。将来にわたり豊かなみどりを残していくため、財源の確保に力を入れます。具体的には、防災力の向上やみどりの保全に役立つ国の補助金のほか、みどりのまちづくり基金やふるさと納税などを積極的に活用します。こうして確保した財源を、公園やみどりの整備に役立てるとともに、市民や民間事業者の活動支援にもつなげます。

#### ① 補助金等の活用

国などの交付金や補助金などを積極的に活用することで、みどりづくりのための財源を確保し、計画的なみどりの整備や管理を進めます。

表 5-4 公園整備・緑地保全支援制度一覧

実施主体	制度・財源	事業区分・メニュー名
国土交通省	社会資本整備総合交付金 (または防災・安全交付金)	都市公園・緑地等事業 (基幹事業)
		└ 都市緑地保全事業
		└ 都市公園安全・安心対策事業
		└ 社会課題対応型都市公園機能向上促進事業 └ グリーンインフラ活用型都市構築支援事業
環境省	生物多様性保全推進交付金	生物多様性保全推進支援事業
	地球環境基金 (環境再生保全機構)	環境保全活動助成
林野庁	森林・山村多面的機能発揮対策交付金	地域環境保全タイプ
埼玉県	彩の国みどりの基金 (みどりの再生県民税)	みどりの活動支援補助事業
	さいたま緑のトラスト基金	こどもエコクラブ活動支援助成金
		トラスト保全地取得・管理

#### ② 多様な財源の活用

みどりのまちづくり基金やふるさと納税などの活用を広げます。市民や民間事業者からの寄付を募ることで、みどりづくりの活動資金を確保し、みんなで支えるみどりのまちづくりを進めます。

表 5-5 様々な財源

みどりのまちづくり基金	ふるさと納税	クラウドファンディング
ネーミングライツ (命名権)	環境金融 (J-クレジット等)	ロケーションサービス (広告料等)

## 【基本施策】2 みどり・公園分野における DX の推進 【重点施策】

近年では公園などの管理に伴う業務量が増え、これまでのやり方だけでは、みどりの質を保つことが難しくなっています。暮らしに欠かせない公園などのみどりを未来へ守り、快適さを維持していくために、デジタル技術を活用した業務の効率化やみどりの情報発信についての検討を進めています。デジタル技術を取り入れることで、限られた人員や時間のなかで暮らしの安全や便利さを高めるほか、公園の利用案内やイベント情報を充実させ、誰もが公園づくりへ参加しやすい環境を整えます。

### ① 公園における DX の推進

公園台帳のデジタル化や公園の案内・イベント情報の周知などにデジタル技術を活用することを検討します。これにより、公園管理を円滑に行うとともに、情報発信をさらに充実させます。

表 5-6 公園における DX 活用の事例

区分	事例	概要・期待される導入効果
基盤	公園台帳のデジタル化	公園の施設データなどをクラウドに移行し、タブレット等で見られるようにすると、現地で情報の確認や更新が可能となるなど、業務がより円滑に進みます。
管理	市民投稿システム	遊具の故障などを、利用者が専用のアプリを通して市に知らせる仕組みです。最新情報をリアルタイムで確認できるため、迅速な対応が可能となります。
管理	自動水やり・AI診断	センサーで土の乾き具合を測定して自動で水やりすることや、AI アプリで木の状態を調べることが出来ます。人の手間を減らしながら、植物を管理できます。
防犯	スマートポール	防犯カメラ、街灯、Wi-Fi などが一つになった柱です。普段は防犯に役立ち、災害時にはスマホの充電やインターネットが繋がる拠点になります。
防犯	AI見守りカメラ	映像を録画するのではなく、AI が転倒や悲鳴などの異常だけを見つけます。プライバシーを守りながら、万が一の事故に迅速に対応できます。
分析	利用実態の可視化	スマホの電波などで利用者数を自動で数えます。勘に頼らず、実際のデータをもとにして、本当に必要な遊具やベンチなどを整備できます。
広報	電子掲示板	張り紙の代わりに、デジタル画面でお知らせを表示します。遠隔操作ができるので、災害情報や熱中症アラートなどを、遅れることなく伝えられます。
学習	解説 QR コード	樹名板の QR コードをスマホで読み込むと、詳しい解説や動画が見られます。低コストで導入可能であり、公園を楽しく学べる場所に変えられます。

### ② WEB を活用したグリーンインフラの普及啓発

ウェブサイトによるグリーンインフラの役割紹介など、デジタル媒体を活用してみどりが持つ多様な効果を伝えます。より多くの方のグリーンインフラに対する理解を深めることで、みどりの活動への参加を後押しします。

### 3 みどりのある暮らしを楽しむ

#### (1) みどりのシティプロモーションの展開

##### 【基本施策】1 みどりに触れ楽しめるイベントの開催

暮らしを支える豊かなみどりをかけがえのない宝として未来に引き継ぐため、みどりの魅力を発信するイベントを展開します。まちのみどりは、単に美しい景観をつくるだけでなく、私たちの生活の安全を守り、人々が交流を育む大切な場所です。多くの方の自然とふれあいたいという想いを踏まえ、みどりを身近に楽しみ、親しむ機会を広げていきます。

##### ① みどり空間を活用したイベントの開催

彩夏祭や朝霞の森秋まつり、アサカストリートテラス、黒目川花まつり等、みどりのある空間を活用したイベントを継続的に開催します。みどりに親しみ、交流する機会をつくることで、地域の魅力を高めます。



ASAKA STREET TERRACE  
(アサカ ストリート テラス)

##### ② 里山環境の活用

里山観察会や田んぼの耕作など、里山環境を活用した体験活動を広げます。里山の自然に触れ、その価値を理解し、保全活動への関心を高めるきっかけを提供します。



あさかり山クラブ主催の  
タケノコ掘り体験

##### ③ 農を通じた交流の場づくり

農業祭等のイベントを通じて、農を通じた市民交流の場をつくることで、都市農業への理解を深め、地域の活性化と食育を進めます。



朝霞市農業祭

## 【基本施策】2 情報発信の強化と充実 **【重点施策】**

市内の豊かなみどりや水辺、そして地域に根差した市民活動は、朝霞らしい豊かな暮らしをつくる大切な土台であり、それらを活用したイベントを開催してきました。しかし、素晴らしいイベントやみどりの魅力についての情報が届かなければ、参加することや地域の楽しみを見つけるきっかけも生まれません。そこで情報発信に力を入れることにより、地域の活力を高め、みどりとともにいきいきと過ごす暮らしを実現します。

### ① みどりの情報発信

みどり空間を活用したイベントの周知など、情報発信を充実させます。みどりに対する関心を高めることで、みどりづくりへの参加を後押しします。

### ② 市民イベント情報の集約と発信

市民団体などが主催するイベントの情報をとりまとめ、広報の支援を行います。これにより、市民活動を盛り上げるとともに、みどりに関するイベントへの参加を後押しします。



市民グループ主催のイベントの周知



市民参加イベントの周知

### 3 みどりのある暮らしを楽しむ

#### (2) みどりのある暮らしの実践

##### 【基本施策】1 みどりを楽しむ 【重点施策】

今の都市生活において、みどりは単なる癒しではなく、暮らしを支える大切な存在です。ヒートアイランド現象の緩和や災害への備え、私たちの心と体の健康や、地域のつながりを生む役割も果たしています。

ぜひ、日々の暮らしの中で、市内の様々な場所にあるみどりに触れ、楽しんでみてください。

私たち一人ひとりがみどりに関心を持ち、楽しみながら関わることで、将来にわたりみどりを守り育てる、持続可能な朝霞につながります。

##### ① 家庭での緑化や菜園づくり

自宅の庭やベランダで、草花や野菜を育ててみませんか。身近な場所で土や植物に触れることで、育てる喜びを感じ、みどりのある心地よい暮らしが生まれます。



農産物直売所  
(浜崎農業交流センター)

##### ② 農産物直売施設等の利用

浜崎農業交流センターや市役所での直売などを利用して、市内で育った新鮮な農産物を味わいましょう。



地産地消の取組

##### ③ 地産地消の実践

地元の野菜などを選んで購入する地産地消を実践してみましょう。地元の農業を応援することにつながり、食の安心・安全について考えるきっかけになります。

##### ④ みどりを生かした健康づくり

グリーントレイルマップを片手にまちを歩いたり、公園の健康遊具を利用したりして、みどりの中で健康的な体づくりを楽しみましょう。



ウォーキングイベント

##### ⑤ みどりのイベントへの参加

市内で行われるみどりのイベントに参加してみましょう。みどりに触れ、学び、多くの人と交流することで、みどりへの愛着がさらに深まります。

## 【基本施策】2 みどりのボランティア活動への参加

私たちの暮らしに心のゆとりや安らぎを与えてくれるみどりを未来へつなぎ、その恩恵を受け続けるためには、行政による管理のほかに、市民一人ひとりが関わるのが大切です。みどりを守り育てる活動は、自分たちの住むまちへの愛着を深めることにもつながります。

例えば、講習会に参加して学び、その知識を生かしてボランティア活動などを実践することで、みどりが元気になります。その結果、みどりの恩恵をさらに楽しむことができます。

ぜひ、こうした学び・実践・楽しむという良い循環を、毎日の暮らしに取り入れてみませんか。みどりのボランティア活動への参加を通じて、まちを支えるみどりの市民力を高めていきましょう。

### ① みどりのボランティア活動への参加

公園や里山の管理、道路の美化活動などに参加してみませんか。自分たちの手でみどりを手入れすることで、まちが美しくなるだけでなく、地域への愛着もより一層深まります。



きれいなまちづくり運動

### ② みどりのリサイクルへの参加

刈った草や落ち葉などのリサイクル活動に協力しましょう。みどりを資源として有効に活用することで、環境に優しく、自然の循環を大切にす社会づくりにつながります。



図 5-8 みどりのリサイクルの事例

### ③ みどりに係る講習会への参加

みどりに関する講習会に参加して、知識や技術を身につけましょう。みどりの育て方や手入れの方法を学ぶことで、一人ひとりが自信を持って活躍できるみどりの担い手になることができます。



講習会の風景

### 3 みどりのある暮らしを楽しむ

#### 【基本施策】3 みどりの交流の拡大

わたしたちの身近なみどりは、心と体の健康を守り、こどもたちの豊かな成長を支える大切な場所です。このみどりの良さをみんなで分かち合い、世代や立場を超えたふれあいの輪を広げていくことが、朝霞市の将来像である「暮らしつづけたいまち」につながります。

みどりのある暮らしを楽しみながら、みどりを育み、共有し、誰もが主役となれる交流の輪を一緒に広げていきましょう。

#### ① 民間のみどりの公開

大学や寺社などで開催されるイベントに出かけたり、個人や企業の方が大切にしているお庭を見せてもらったりしてみませんか。地域の中にある、普段は気づかない素敵なみどりと出会うことができます。



道路に開かれた集合住宅の庭



境内地におけるイベント開催

#### ② SNS を活用したみどりの交流

朝霞で見つけた素敵なみどりの写真を、SNS で発信してみませんか。投稿へのリアクションやコメントを通じた交流が、新しい発見やみどりづくりに参加するきっかけになります。



SNS による旬な情報の発信



SNS を活用した  
みどりの交流機会の創出

## 6章 地域別の取組

---

## 《地域別計画の概要》

内間木、北部、東部、西部、南部の5つの地域ごとに、それぞれの特性を生かしたみどりのまちづくりについて示しています。各地域の計画は、みどりのカルテとみどりの方針の2つから成り立っています。

- みどりのカルテは、市民アンケートで集まった声や、みどりの持つ役割から見た特徴をまとめています。
- みどりの方針は、主な課題を整理するとともに、これからの主な取組内容を方針図とあわせて示しています。

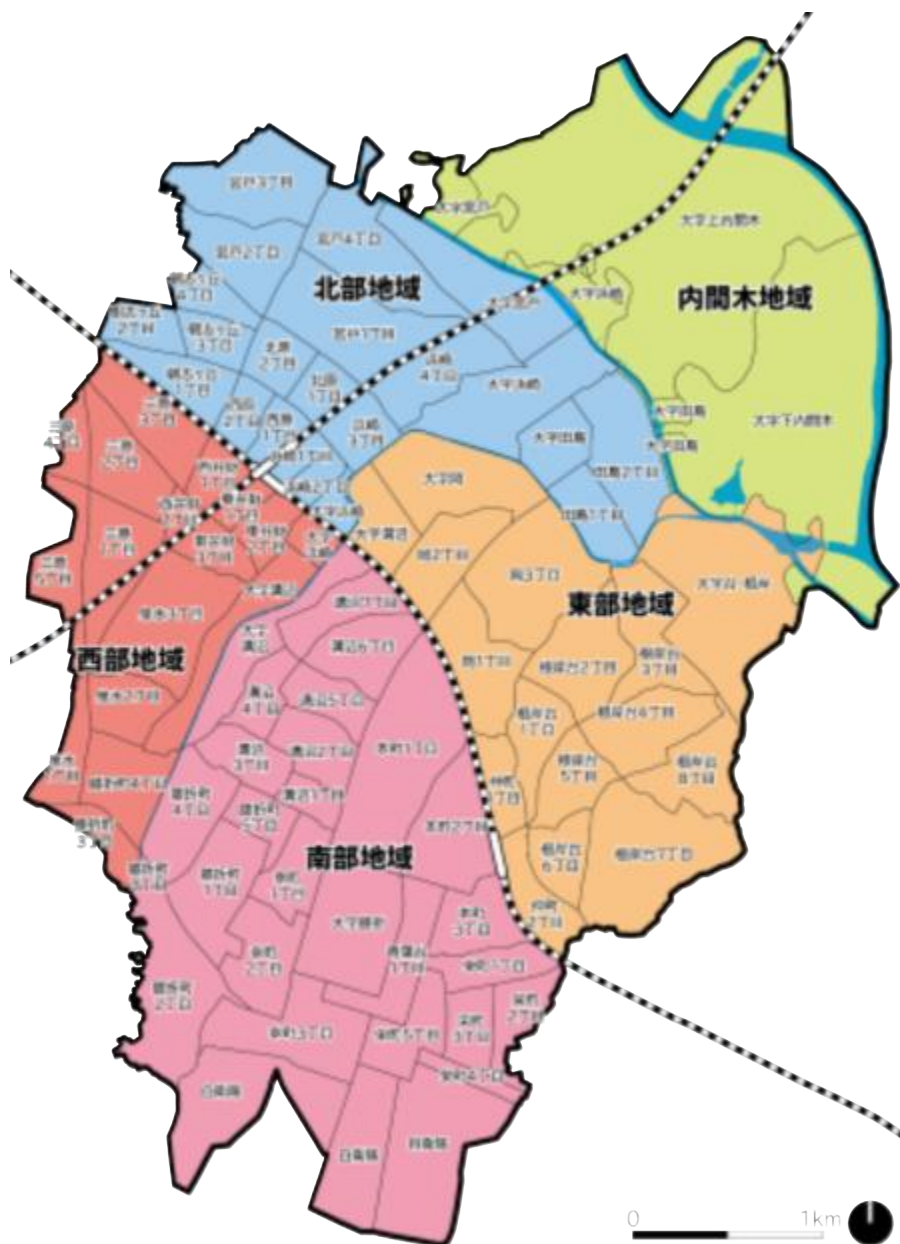


図 6-1 地域別計画の地域割り

みどりのカルテは、以下の構成で作成しています。

表 6-1 みどりのカルテの構成


地域名				グリーンインフラの効用別分析	効用別分析結果	
面積	人口	みどり率	地域の位置		健全な水循環を支えるみどり	
市民アンケート調査	問1	みどりに対する満足度		グリーンインフラの効用別分析	都市の気温上昇を抑えるみどり	
	問2	豊か・魅力的と感じるみどり			地球温暖化の緩和に貢献するみどり	
	問3	将来に残していきたいと思うみどり			生き物の生息空間となるみどり	
	問4	公園利用頻度			まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	
	問5	近くの公園についての評価			暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	
	問6	みどりのまちづくりに必要な施策			健康づくりの場となるみどり	
	問7	緑化活動等への参加経験			身近な遊び場となるみどり	
	問10	みどりを守るための仮定の支払額			にぎわいや交流の場となるみどり	
						防災拠点となるみどり

また、グリーンインフラの効用は、以下の指標に基づき分析を行い、結果を導き出しています。

表 6-2 グリーンインフラの分析指標

評価項目	評価指標	内容	町丁目別の値
健全な水循環を支えるみどり	雨水の地表面浸透量 (mm/日)	水循環シミュレーションにより算定された地表面浸透量	地表面浸透量の平均
	雨水の地表面排水量 (mm/日)	水循環シミュレーションにより算定された地表面排水量	地表面排水量の平均
都市の気温上昇を抑えるみどり	地表面温度 (°C)	GIタイプの分布とランドサット衛星観測データより作成した輝度温度との回帰分析による推測地表面温度	推測地表面温度の平均
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	炭素固定量 (トン/ha/年)	GIタイプにおける純生産量の算定を介した年間の炭素固定量の算定	炭素固定量の平均
生き物の生息空間となるみどり	生物指標の多様度 (%)	34の生物指標を分母としたGIタイプで生息が想定される生物指標の数の割合	生物指標の多様度の平均
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	豊か・魅力的と感じるみどりの回答数 (件)	市民アンケート調査において抽出された豊か・魅力的と感じるみどりの回答数	回答数の平均
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	農業活動空間面積率 (%)	耕作地及び休耕地の50%の面積を評価単位空間面積で除したもの	面積率の平均
健康づくりの場となるみどり	散策路・歩道の長さ (m/ha)	公園緑地等の遊歩道と道路の歩道の長さ	1haあたりの歩道等の長さ
身近な遊び場となるみどり	必要公園面積に対する現況公園の過不足面積 (ha)	半径500m以内の人口に近隣住区モデルの住区基幹公園標準面積(4ha)を乗じた必要面積に対する現況の都市公園等の過不足面積	過不足面積の平均
にぎわいや交流の場となるみどり	イベント開催に供するオープンスペース面積 (㎡/人)	評価地点から500m以内における1000㎡以上の都市公園やイベント開催に供するオープンスペースの一人当たりの面積	面積の平均
避難地や防災拠点となるみどり	非水害時における避難有効面積 (㎡/人)	評価地点から500m以内における学校や1000㎡以上の都市公園等における一人当たりの避難有効面積	避難有効面積の平均
	水害時における避難有効面積 (㎡/人)		避難有効面積の平均

# 内間木地域

面積		人口		みどり率		
3.7km <sup>2</sup>		1,309人		64.7%		
市民アンケート調査	問1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している	0.36 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>			
		d.お住いの近くの公園に満足している	0.04 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>			
		g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある	0.04 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>			
		h.良いまちの景観がつけられている	0.00 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>			
	問2 豊か・魅力的と感じるみどり	新河岸川 (22件)、荒川 (5件)、秋ヶ瀬 (2件)				
	問3 将来に残したいと思うみどり	新河岸川 (6件)、荒川 (3件)、秋ヶ瀬 (1件)				
	問4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	13.5回 (市全体 30.9回)				
	問5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	0.22 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>	b.安全に遊べる遊具が充実している	-0.06 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>	
		c.公園の植物がよい景観をつくっている	0.11 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>	h.近くの住民によく利用されている	-0.06 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>	
	問6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1位】だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を充実させる (34.4%)		【2位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる (21.9%)		
【3位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する (12.5%)		【4位】民間の協力を得て、魅力的な公園的空間を整備し運営する (6.3%)、公園や河川、農地を活用したイベントを充実させる (6.3%)、まちづくりへの参加やイベントなどの情報発信を充実させる (6.3%)				
問7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化 (28.6%)		【1位】全てに参加したことがない (28.6%)			
	【3位】道路などの清掃活動 (23.8%)		【4位】市民農園や近所の空き地を借りた野菜や草花の生産 (9.5%)			
問10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】こどもの遊び場や散策の場となるみどり (¥310)		【2位】CO <sub>2</sub> の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり (¥215)			
	【3位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり (¥135)		【4位】まちの景観、郷土の風景を形成するみどり (¥70)			

# みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表面浸 透量 (mm/日)	雨水の 地表面排 水量 (mm/日)	地表面温 度 (℃)	炭素固定 量 (t/ha/年)	生物指標 の 多様度 (%)	豊か・魅力 と 感じる みどりの 回答数 (件)	農業活動 空間面積 率 (%)	散策路・歩 道の長さ (m/ha)	必要公園面 積に対する 現況公園の 過不足面積 (ha)	イベント開 催に供する オープンス ペース面積 (㎡/人)	非水害時に おける一人 あたりの避 難有効面積 (㎡/人)	水害時に おける一人 あたりの避 難有効面積 (㎡/人)
内 間 木	大字上内間木	0.45	0.66	32.08	2.38	38.07	10.19	9.5%	49.9	2.04	96.64	95.01	21.11
	大字下内間木	0.50	0.28	30.93	3.32	48.29	16.31	9.7%	76.7	0.50	86.57	66.91	17.09
	大字宮戸の一部	0.50	0.06	30.83	3.81	52.37	9.63	25.6%	1.0	0.06	0.69	28.93	0.40
	大字浜崎の一部	0.58	0.50	31.51	2.99	45.60	12.79	3.4%	12.4	1.53	44.13	42.16	1.51
	大字田島の一部	0.38	0.28	31.34	2.24	41.42	13.31	0.2%	8.7	1.25	11.56	9.61	1.33
	大字田島の一部	0.49	0.02	29.81	3.23	56.27	24.14	0.0%	0.0	2.67	31.35	15.46	0.27
	地域全体	0.47	0.49	31.58	2.79	42.64	12.61	9.7%	56.5	1.39	87.27	79.78	18.08
朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95	

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	この地域は、地下水が浅い場所にあるため、雨水が地面に染み込みにくい特徴があります。そのため、雨水を一時的に貯める場所を確保することが大切です。
都市の気温上昇を抑えるみどり	荒川や新河岸川などの水辺に囲まれており、夏に水を張る田んぼや、木陰を作る屋敷林などがあるため、他の地域に比べて地面の温度が低くなっています。しかし近年は、物流倉庫や工場が増えており、気温が上がるヒートアイランド現象が見受けられます。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	荒川や新河岸川、朝霞調節池の広い草地のほか、田畑や屋敷林などが広がっており、二酸化炭素を吸収する大きな役割を果たしています。
生き物の生息空間となるみどり	朝霞調節池は、水面から湿地、林が連続的につながる環境を形成しており、多くの種類の生き物が暮らしています。また、川や水辺は生き物の移動ルートとしても重要で、特に朝霞調節池とその周辺は優れた自然環境です。点在する屋敷林や林も、森や草原を好む生き物たちのすみかになっています。
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	荒川、新河岸川、朝霞調節池は、豊かで魅力的なみどりとして親しまれています。こうした水辺や田園の風景が、内間木地域らしい美しい景観をつくっています。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	まとまった農地が残っており、水田や畑として利用されています。しかし、休耕地も多く見られるようになっています。
健康づくりの場となるみどり	荒川沿いには、サイクリングやジョギング、散歩ができるルートが広く整備されています。新河岸川の左岸には遊歩道がありませんが、今後、新たな道路の整備に合わせて、この地域を縦断する歩道の整備が期待されています。
身近な遊び場となるみどり	現在、公園は少ない状況ですが、川沿いの広い空間や神社・お寺の境内などがあります。今後は、新たな道路の整備に合わせて内間木公園拡張整備の構想があるため、地域の中心となる公園づくりが期待されています。
にぎわいや交流の場となるみどり	内間木公園や神社・お寺の境内は、お祭りやイベントを開くための広場として活用できると考えられます。
防災拠点となるみどり	内間木公園の拡張整備において、災害時にも役立つ機能が備わることが期待されています。

## 内間木地域のみどりの方針

### 主な課題

- 《身近な公園の不足》 この地域は公園が少なく、市民アンケートでも、身近な憩いの場がほしいという声が多く挙がっています。
- 《水辺空間の柔軟な活用》 荒川や新河岸川、朝霞調節池などの豊かな自然環境があります。自然を守りながら、遊び場や自然との触れ合いの場、健康づくりの場として、もっと自由に活用する工夫が求められています。
- 《田園景観の保全と活用》 休耕地が比較的多くあります。この地域ならではの田園風景や、そこに暮らす生き物たちを守りつつ、使われていない農地を活用していくことが課題となっています。
- 《水害リスクへの備え》 川に近く土地が低いため、大雨による浸水のリスクが高い地域です。その一方で、災害時に安全を確保できる場所が不足しています。
- 《地面が覆われることによる環境への影響》 近年、工場などが増え、地面がアスファルトなどで覆われることが多くなりました。そのため、夏場の地面の温度上昇や、大雨の際に雨水が地まず、一気に流れ出してしまうことへの対策が必要です。

### 主な取組

#### ① 暮らしを支えるみどりの拠点とネットワークをつくる

- a. 公園が不足している現状に対し、内間木公園拡張整備に向けた検討を進めます。住民参加のワークショップなどを通じて意見を収集し、整備に際しては身近な遊び場として、また地域の交流拠点や防災拠点となるように検討します。
- b. バイパス整備などに伴う周辺地域の開発においては、内間木公園など地域のみどりの拠点とのつながりを大切に、並木道や公園など、みどりの空間を充実させるよう働きかけます。

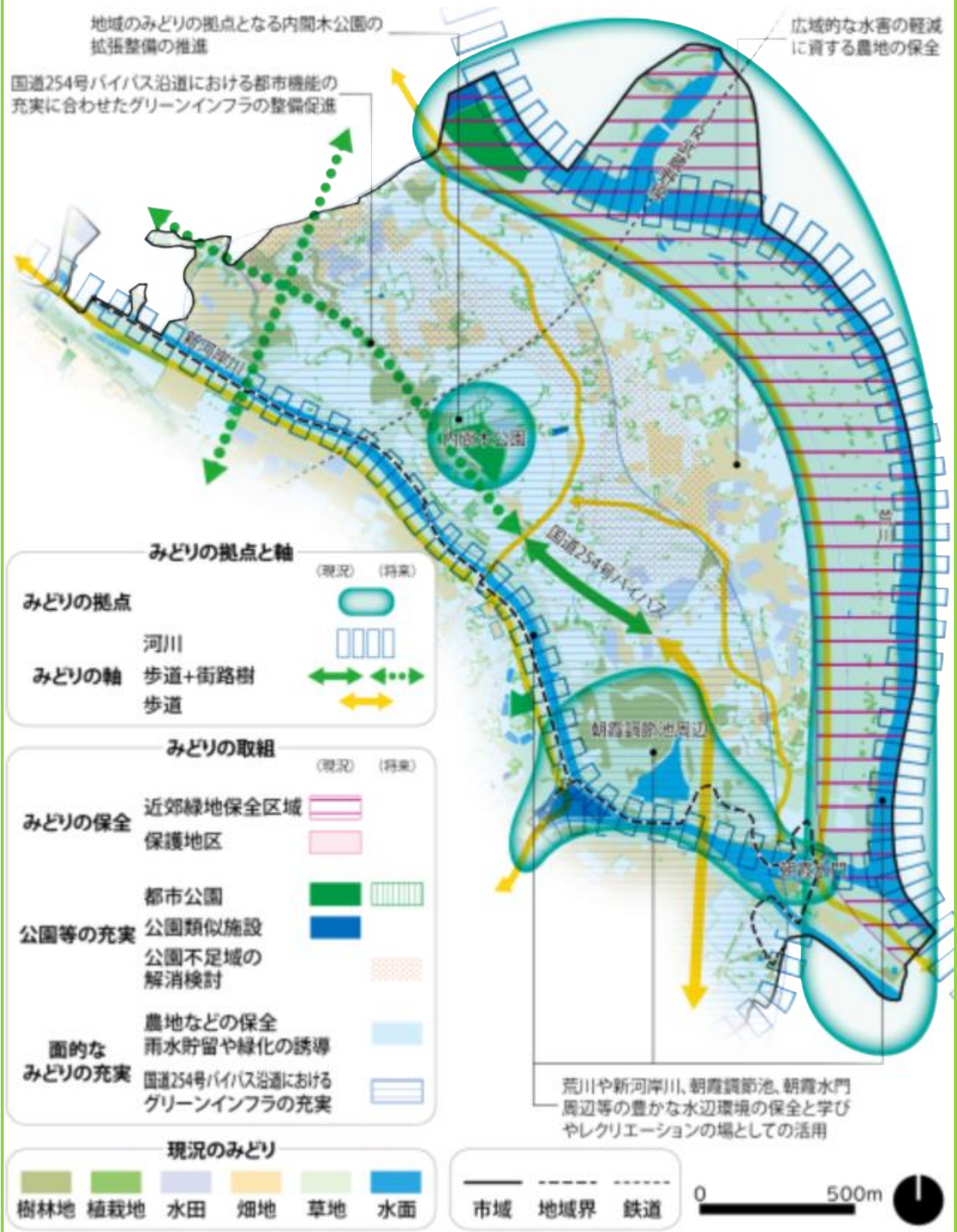
#### ② 田園と水辺の景観を守り・生かす

- a. 農業の担い手を育てたり、農作業の支援を行ったりするとともに、農地バンクの活用を図るなど、農地が減らない取り組みを進めます。
- b. 地域の財産である田園風景や水辺の環境を守りながら、その魅力を市民の皆さんが楽しめるような活用方法を考えます。
- c. 荒川や新河岸川、朝霞調節池、朝霞水門周辺の豊かな自然景観を守りながら生かし、地域の中の人も外の人も楽しめる、魅力的な水辺空間づくりを進めます。

#### ③ 災害に強く、環境にやさしい地域をつくる

- a. 開発が行われる場合は雨水を貯める機能を確保してもらいつつ、田んぼや調節地など、雨水を一時的に貯める機能を生かし、水害のリスクを減らすまちづくりを考えます。
- b. バイパス整備が行われる際には、豊かな自然環境が失われることのないよう、道路区域内への緑地帯や雨水を貯める施設の設置について働きかけます。
- c. バイパス整備などに伴う周辺地域の開発においては、グリーンインフラを生かし、環境や景観に配慮した取組が進むよう検討します。

# みどりの方針図



# 北部地域

面積		人口		みどり率		
3.4km <sup>2</sup>		30,979人		31.3%		
市民アンケート調査	問1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している	-0.02 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>			
		d.お住いの近くの公園に満足している	-0.12 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>			
		g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある	-0.18 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>			
		h.良いまちの景観がつけられている	-0.02 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>			
	問2 豊か・魅力的と感じるみどり	黒目川 (331件)、新河岸川 (22件)、わくわくどーむ (9件)、田島緑地 (9件)、北割公園 (3件)、北朝霞公園 (2件)				
	問3 将来に残したいと思うみどり	黒目川 (154件)、新河岸川 (6件)、わくわくどーむ (2件)、田島緑地 (2件)、北割公園 (2件)、北朝霞公園 (2件)				
	問4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	29.3回 (市全体 30.9回)				
	問5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	-0.14 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>	b.安全に遊べる遊具が充実している	-0.02 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>	
		c.公園の植物がよい景観をつくっている	0.04 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>	h.近くの住民によく利用されている	-0.39 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>	
	問6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する (16.5%)		【2位】だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を充実させる (15.4%)		
【3位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる (14.3%)		【4位】様々なレクリエーションを楽しむように大きな公園を充実させる (8.1%)				
問7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1位】全てに参加したことがない (11.7%)		【2位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化 (10.5%)			
	【3位】道路などの清掃活動 (9.2%)		【4位】市民農園や近所の空き地を借りた野菜や草花の生産 (7.2%)			
問10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】こどもの遊び場や散策の場となるみどり (¥151)		【2位】CO <sub>2</sub> の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり (¥151)			
	【3位】水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり (¥135)		【4位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり (¥121)			

# みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表浸透量 (mm/日)	雨水の 地表排水量 (mm/日)	地表温度 (℃)	炭素固定 量 (t/ha/年)	生物指標 の多様度 (%)	豊か・魅力 と感ずる みどりの 回答数 (件)	農業活動 空間面積 率 (%)	散策路・歩 道の長さ (m/ha)	必要公園面 積に対する 現況公園の 過不足面積 (ha)	イベント開 催に供する オープンス ペース面積 (㎡/人)	非水害時に おける一人 あたりの避 難有効面積 (㎡/人)	水害時に おける一人 あたりの避 難有効面積 (㎡/人)	
北部	北原1丁目	1.02	1.33	33.96	0.87	22.29	8.14	8.5%	105.4	-3.61	5.05	4.45	3.58	
	北原2丁目	0.70	1.64	34.42	0.29	19.03	0.52	0.0%	137.9	-3.85	2.11	2.97	2.97	
	西原1丁目	0.29	2.01	34.54	0.22	11.65	0.49	2.9%	160.7	-4.77	3.71	3.31	3.15	
	西原2丁目	0.58	1.69	34.44	0.26	17.07	1.90	2.4%	55.8	-4.48	1.95	2.62	2.62	
	浜崎1丁目	0.53	1.72	34.42	0.32	18.40	0.62	1.1%	164.4	-2.59	6.86	4.92	3.06	
	浜崎2丁目	0.79	1.26	33.62	1.12	28.93	2.30	13.6%	163.7	-2.64	10.64	8.38	2.40	
	浜崎4丁目	0.78	1.16	33.61	1.25	32.10	2.47	13.0%	45.3	-2.35	10.72	15.14	0.78	
	浜崎3丁目	0.60	1.37	33.86	0.76	24.53	27.33	3.6%	201.0	-1.84	13.72	15.23	3.20	
	朝志ヶ丘1丁目	0.82	1.50	33.60	1.02	28.97	1.42	0.0%	130.2	-10.06	0.82	1.36	1.36	
	朝志ヶ丘2丁目	0.99	1.16	33.97	0.84	28.99	0.97	1.0%	12.8	-5.77	0.72	0.79	0.79	
	朝志ヶ丘3丁目	0.87	1.43	34.59	0.38	26.83	0.86	4.1%	26.6	-6.56	0.77	1.72	1.72	
	朝志ヶ丘4丁目	0.72	1.57	34.54	0.38	21.73	0.85	4.9%	9.3	-7.51	0.48	1.09	1.09	
	宮戸1丁目	0.56	1.78	33.28	0.59	15.97	1.10	2.1%	35.7	-1.21	2.02	3.04	1.60	
	宮戸2丁目	0.96	1.31	34.25	0.78	25.64	1.37	7.8%	26.3	-4.85	0.77	0.54	0.54	
	宮戸3丁目	0.87	1.07	33.59	1.18	33.65	3.04	11.6%	60.4	-2.94	2.09	1.15	0.42	
	宮戸4丁目	0.93	1.15	33.56	1.23	31.05	2.66	9.7%	115.2	-3.79	1.33	3.04	0.35	
	田島1丁目	0.40	1.32	33.70	0.73	24.69	52.47	3.6%	210.2	2.48	27.26	14.23	4.58	
	田島2丁目	0.45	1.00	32.63	1.95	37.59	17.82	6.5%	167.4	0.59	22.74	11.10	1.60	
	大字浜崎の一部	0.62	0.53	32.15	2.85	39.77	26.05	42.5%	79.7	1.02	26.59	32.03	1.18	
	大字浜崎の一部	0.45	1.07	32.53	1.61	35.52	84.29	10.9%	97.5	0.70	14.97	13.27	1.12	
	大字宮戸の一部	0.45	0.59	31.75	2.79	41.59	9.74	25.7%	58.3	0.52	5.17	19.93	0.65	
	大字田島の一部	0.53	0.76	33.07	2.01	28.90	22.33	30.5%	88.7	3.02	33.58	23.51	0.95	
	地域全体		0.68	1.18	33.35	1.33	29.40	10.74	12.2%	88.8	-2.15	9.30	9.86	1.43
	朝霞市全域		0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

## グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	住宅などが多いため、他の地域と比べると、雨水が地面にしみ込みにくいですが、農地や公園などの土がある場所ではよくしみ込むため、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。
都市の気温上昇を抑えるみどり	建物や農地が多いため、全体的に地面の温度が高いです。一方で、川沿いや木々のある場所はクールアイランドになっていて、まちの暑さを和らげるのに役立っています。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	斜面林や川沿いの草地などは、二酸化炭素を吸収しています。しかし、雑木林では老木が増えたり、ナラ枯れという病気が増えたりしていることが課題です。
生き物の生息空間となるみどり	新河岸川と黒目川には、たくさんの種類の生き物が生息しており、農地と川が一体になって生き物のすみかを形成しています。まちなかでも、小さなみどりが生き物の暮らし場所になっています。
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	黒目川や公園、畑、並木道などが地域のみどりとして親しまれていますが、みどりの風景が少ない場所もあります。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	宮戸から田島にかけて、まとまった農地が広がっており、まちなかにも小さな農地が点在しています。宮戸3丁目では、斜面林と一緒に水田をどのように保全していくか検討されています。
健康づくりの場となるみどり	川沿いの遊歩道はジョギングや散歩に使われており、健康づくりの大切な場所です。一方で、駅から離れた場所では、歩きやすい歩道が十分につなげていません。
身近な遊び場となるみどり	市街地では、人口の増加に公園の整備が追いついておらず、特に朝志ヶ丘から宮戸付近で不足していますが、新しくみやど公園が整備されました。また、宮戸の緑地の遊び場として活用できる可能性があります。
にぎわいや交流の場となるみどり	まちなかには、イベントができるような広場が足りません。今ある公園などをうまく活用して、交流の場を充実させることが大切です。
防災拠点となるみどり	宮戸から朝志ヶ丘にかけて、災害時の拠点となるような公園が不足しています。

## 北部地域のみどりの方針

### 主な課題

- 《身近な公園の不足》 人口の増加に公園の整備が追いついておらず、特に朝志ヶ丘や宮戸エリアで不足しています。市民アンケートでも、もっと公園がほしいという声が多く挙がっています。
- 《安全で快適な歩行者ネットワークの構築》 みどり豊かで安全な歩道を望む声が多くあります。駅から離れた地域などで、誰もが安心して歩ける歩道の整備が課題です。
- 《黒目川の保全と活用》 朝霞のみどりを象徴する黒目川は、その優れた自然環境を守りながら、魅力を高め、次の世代へ引き継いでいくことが求められます。
- 《ヒートアイランド現象への対策》 住宅が密集しているため、ヒートアイランド現象を和らげるためのみどりが重要になっています。
- 《防災機能の強化》 身近な防災拠点となる公園について、朝志ヶ丘や宮戸エリアでは不足しています。
- 《樹林地の保全》 貴重な自然である樹林地ですが、老木が増えたり、ナラ枯れという病気の被害が広がったりしています。樹林地を残すことに加え、将来にわたってどう手入れをしていくかが課題です。
- 《農業景観の保全》 黒目川や新河岸川の沿岸には、美しい田園風景が広がっています。これらは暮らしを支える大切な場所であり、保全が望まれます。また、宮戸の緑地周辺には、斜面の林と水田、川がセットになった貴重な風景が残されています。昔ながらの農業の風景として、守っていくことが求められます。

### 主な取組

#### ① 暮らしの質を高める身近なみどりを充実させる

- a. 身近な公園が不足している地域では、市民緑地制度や立体都市公園制度など、新しい仕組みの導入を検討し、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場をつくります。
- b. 遊びや交流の拠点となる公園を確保するため、(仮称) 浜崎ふれあい公園の用地として取得した土地を含め、活用を検討します。
- c. 新しい道路の整備にあわせて、安全で歩くことが楽しくなるようなみどりのネットワークをつくります。
- d. 雨水を地面にしみ込ませたり、生き物のすみかになったりする、まちなかの農地を守ります。

#### ② 黒目川・新河岸川を中心とした自然環境を守り・楽しむ

- a. 公園が少ない北部地域において、黒目川と新河岸川は貴重なみどりの空間です。保全活動を支援するとともに、自然観察会やイベントなどを通じて、地域の自然の価値を再発見し、みどりへの愛着を深めるきっかけをつくります。
- b. 黒目川沿いの農地は、農業とふれあえる貴重な場所です。次の世代へ引き継いでいくため、保全活動を支援します。
- c. 新河岸川周辺の林や田園風景をひとつのまとまりとして捉え、その豊かな自然環境を次の世代へ引き継ぐための活動を支援します。

#### ③ 持続可能な都市環境をつくる

- a. 駅前広場や公共空間の整備においては、ひとが主役のウォークアブルな空間や、交流の場づくりを進めます。
- b. ヒートアイランド現象の緩和や地下水を蓄えるなど、グリーンインフラの視点を取り入れたまちづくりを目指します。
- c. ナラ枯れ等の課題を抱える樹林地については、専門家の意見を取り入れながら、将来にわたって良好な状態を保てるような管理方法を考えます。

# みどりの方針図



**みどりの取組**

みどりの保全	特別緑地保全地区	(現況)	(将来)
	保護地区		
	生産緑地地区		
公園等の充実	都市公園		
	公園類似施設		
	公園不足域の解消検討		
面的なみどりの充実	市民農園		
	緑化推進		(台地面)
	雨水浸透貯留の推進		(低地面)
	農地などの保全		(低地面)
	雨水貯留や緑化の推進		
	駅周辺のウォーカブル空間の整備		

**みどりの拠点と軸**

みどりの拠点	(現況)	(将来)
河川		
みどりの軸	歩道+街路樹	
	歩道	

**現況のみどり**


樹林地	植栽地	水田	畑地	草地	水面

地形のひだ (崖線)

市域	地域界	鉄道

0 500m

# 東部地域

面積		人口		みどり率		
3.6km <sup>2</sup>		30,883人		37.3%		
市民アンケート調査	問1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している	0.22 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>			
		d.お住いの近くの公園に満足している	-0.03 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>			
		g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある	0.01 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>			
		h.良いまちの景観がつけられている	0.16 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>			
	問2 豊か・魅力的と感じるみどり	黒目川 (331件)、城山公園 (70件)、新河岸川 (22件)、越戸川 (12件)、田島緑地 (9件)、水久保公園 (6件)、朝霞駅周辺 (5件)、旧高橋家住宅 (4件)、東圓寺 (3件)				
	問3 将来に残したいと思うみどり	黒目川 (158件)、城山公園 (85件)、根岸台の斜面林 (10件)、新河岸川 (6件)、柵塚古墳歴史広場 (4件)、水久保公園 (4件)、朝霞駅周辺 (3件)、旧高橋家住宅 (3件)、越戸川 (3件)、根岸台自然公園 (3件)				
	問4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	31.1回 (市全体 30.9回)				
	問5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	0.07 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>	b.安全に遊べる遊具が充実している	-0.05 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>	
		c.公園の植物がよい景観をつくっている	0.16 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>	h.近くの住民によく利用されている	0.34 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>	
	問6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する (18.2%)		【2位】だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を充実させる (16.8%)		
【3位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる (13.3%)		【4位】民間の協力を得て、魅力的な公園的空間を整備し運営する (7.4%)				
問7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化 (12.4%)		【2位】道路などの清掃活動 (11.3%)			
	【3位】全てに参加したことがない (10.6%)		【4位】河川の清掃や草刈り (7.0%)			
問10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり (¥142)		【2位】CO <sub>2</sub> の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり (¥129)			
	【3位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり (¥128)		【4位】こどもの遊び場や散歩の場となるみどり (¥112)			

# みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表面 浸透量 (mm/日)	雨水の 地表面 排水量 (mm/日)	地表面 温度 (℃)	炭素 固定量 (t/ha/年)	生物指標 の 多様度 (%)	豊か・魅力 と 感じる みどりの 回答数 (件)	農業活動 空間 面積率 (%)	散策路・歩 道の長さ (m/ha)	必要公園面 積に対する 現況公園の 過不足面積 (ha)	イベント開 催に供する オープンス ペース面積 (㎡/人)	非水害時に おける一人 あたりの避 難有効面積 (㎡/人)	水害時に おける一人 あたりの避 難有効面積 (㎡/人)
東部	仲町1丁目	0.81	1.50	34.53	0.35	20.91	0.74	4.3%	15.9	-5.86	0.55	1.10	1.10
	仲町2丁目	0.69	1.70	33.97	0.87	24.46	2.72	8.0%	259.4	-6.65	1.22	0.85	0.85
	根岸台1丁目	0.98	1.34	34.27	0.70	25.82	1.55	11.5%	7.7	-6.11	0.53	1.12	1.12
	根岸台2丁目	1.31	0.95	33.11	1.94	36.14	4.05	27.3%	86.1	-2.14	3.96	2.97	4.03
	根岸台3丁目	0.59	1.47	33.96	0.81	28.08	1.53	2.4%	126.8	-3.57	9.40	6.78	7.45
	根岸台4丁目	1.25	0.97	33.03	1.85	41.11	3.25	17.7%	80.7	-1.69	4.00	2.02	2.34
	根岸台5丁目	1.04	1.38	33.81	1.04	27.96	3.17	17.0%	154.3	-4.14	0.98	0.54	0.54
	根岸台6丁目	1.05	1.38	33.91	1.08	25.89	2.42	18.7%	34.9	-5.35	1.34	0.98	0.98
	根岸台7丁目	1.27	1.01	33.26	1.77	37.86	4.48	23.9%	24.3	-2.65	3.00	2.60	2.60
	根岸台8丁目	1.31	0.87	32.71	2.28	41.79	5.67	19.5%	57.3	-1.69	5.54	3.77	2.88
	岡1丁目	0.98	1.34	33.99	0.99	26.07	2.20	16.4%	46.5	-4.57	1.65	2.91	2.76
	岡2丁目	1.05	1.06	32.99	1.76	38.26	2.66	5.1%	115.9	-0.81	15.01	15.72	0.76
	岡3丁目	0.91	1.07	33.12	1.49	37.59	20.15	6.7%	81.3	-0.72	12.59	8.20	3.61
	大字岡	0.57	0.65	32.43	2.32	35.45	45.77	28.6%	125.8	2.12	41.06	41.26	0.47
	大字台・根岸	0.52	0.43	31.91	2.49	36.29	28.14	26.6%	87.8	2.56	133.49	147.05	64.75
	大字溝沼の一部	0.40	1.22	33.23	1.13	25.22	37.02	9.5%	39.1	0.23	23.00	21.42	0.57
	地域全体		0.90	1.01	33.11	1.67	33.85	13.53	17.6%	81.9	-1.55	30.04	31.46
朝霞市全域		0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

## グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	段丘の上では家が増えていますが、農地などの自然も残っており、これらが混ざり合っている地域です。畑などの土がある場所は、雨水がよく浸みこむため、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。
都市の気温上昇を抑えるみどり	住宅が増えて地面の温度が高くなりやすい地域ですが、公園や斜面林などはクールアイランドになっていて、まちの暑さを和らげるのに役立っています。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	段丘の縁にある斜面林や、広く残っている農地などは、二酸化炭素を吸収しています。しかし、雑木林では老木が増えたり、ナラ枯れという病気が増えたりしていることが課題です。
生き物の生息空間となるみどり	住宅が増える一方で、農地や林が点在し、いろいろな環境が混ざり合っています。そのため、多くの種類の生き物が暮らしており、生き物の移動ルートとしての役割も果たしています。
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	黒目川は、地域で最も魅力的なみどりとして親しまれています。ほかにも、公園や畑、並木道、里山などが、東部地域らしい美しい風景をつくっています。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	岡や根岸台には、まとまった農地が広がっており、それ以外の場所にも生産緑地が点在しています。身近な場所で農業に触れることができる地域です。
健康づくりの場となるみどり	黒目川や公園、斜面林など、みどり豊かな環境に恵まれています。これらを結ぶ散策ルートもありますが、歩道が途切れている場所などもあり、整備が必要です。
身近な遊び場となるみどり	市街地では、人口の増加に公園の整備が追いついておらず、特に朝霞駅の周辺で不足しています。新しい公園づくりや、今ある樹林地を遊び場として活用していくことが期待されています。
にぎわいや交流の場となるみどり	市街地、特に朝霞駅の周辺には、イベントができるような広場が足りません。今ある公園などをうまく活用して、交流の場を充実させることが大切です。
防災拠点となるみどり	災害時の拠点となるような公園が不足しています。

## 東部地域のみどりの方針

### 主な課題

- 《農地や斜面林と調和したまちづくり》 宅地化が進む中で、崖線と呼ばれる地形を構成する斜面林や畑など、東部地域ならではの景色をどう守り、まちづくりと両立させるかが大きな課題です。
- 《都市環境の保全》 宅地化が進む中でも、みどりが持っている様々な機能を維持していく必要があります。
- 《みどりのネットワークの形成》 点在する公園や緑地を、快適な遊歩道でつなぎ、まち歩きを楽しめるようなみどりのネットワークをつくることが求められています。
- 《中心市街地における憩いの空間づくり》 多くの人が集まる朝霞駅周辺は、公園が不足しています。こどもたちの遊び場や、多世代が交流できる広場の確保が求められます。
- 《防災機能の強化》 身近な防災拠点となる公園について、仲町から根岸台 1 丁目・5 丁目・6 丁目付近において不足しています。

### ①景観資産を守り、まちの安全性と魅力を高める

- a. 住みよい環境をつくっている崖線の斜面林や農地などの風景を守っていくため、その大切さを共有していきます。
- b. 崖線には、豊かな自然であることを象徴する湧水が多く残っています。この湧水を守るために、台地の上では、雨水が地面に浸み込みやすくなるようにします。開発が行われる際には、雨水を一時的に貯めたり浸みこませたりする施設の設置を働きかけて湧水を守るとともに、大雨による浸水被害を減らすまちづくりを進めます。
- c. 旧高橋家住宅など、地域のみどりと一体になった歴史的な建物を守ります。また、地域の歴史や文化を感じられる散策ルートなどを充実させ、地域の魅力にふれ、誇りを持てるような機会を増やします。

### ②暮らしを支える身近なみどりを創出する

- a. 身近な公園が不足している駅周辺の地域では、今ある公園を充実させることや、市民緑地制度や立体都市公園制度などの新しい仕組みの導入を検討し、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場をつくります。
- b. 民間の開発と連携して、オープンスペースを確保できないか検討します。
- c. ヒートアイランド現象の緩和や、地下水を蓄えるなど、グリーンインフラの視点を取り入れたまちづくりを目指します。

### ③みどりのある暮らしの実践

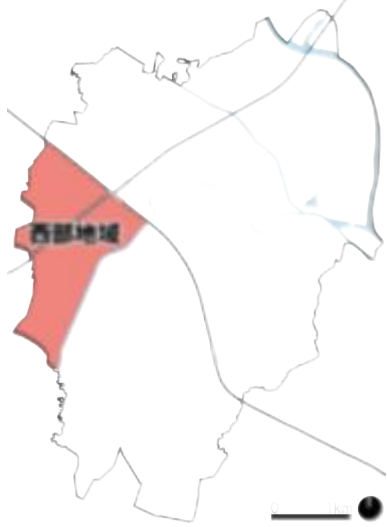
- a. 農地や樹林地、歴史的な建物を生かし、農業体験や自然学習など、身近な場所でみどりに触れる機会を充実させます。
- b. 地産地消や、公園管理活動への参加、自宅でのガーデニングなど、みどりを楽しむ暮らしを広げる取組を進めます。

### 主な取組

# みどりの方針図



## 西部地域

面積		人口		みどり率		
2.2km <sup>2</sup>		29,563人		18.9%		
市民アンケート調査	問1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している	-0.10 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>			
		d.お住いの近くの公園に満足している	-0.10 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>			
		g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある	-0.14 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>			
		h.良いまちの景観がつけられている	-0.10 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>			
	問2 豊か・魅力的と感じるみどり	黒目川 (331件)、島の上公園 (7件)、南割公園 (6件)				
	問3 将来に残したいと思うみどり	黒目川 (154件)、島の上公園 (10件)、南割公園 (7件)、朝霞台駅の木々 (2件)、弁財公園 (2件)				
	問4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	21.9回 (市全体 30.9回)				
	問5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	-0.07 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>	b.安全に遊べる遊具が充実している	-0.01 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>	
		c.公園の植物がよい景観をつくっている	0.07 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>	h.近くの住民によく利用されている	0.43 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>	
	問6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する (18.6%)		【2位】だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を充実させる (15.3%)		
【3位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる (12.4%)		【4位】民間の協力を得て、魅力的な公園的空間を整備し運営する (9.3%)				
問7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1位】全てに参加したことがない (13.0%)		【2位】道路などの清掃活動 (9.7%)			
	【3位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化 (9.3%)		【4位】市民農園や近所の空き地を借りた野菜や草花の生産 (8.0%)			
問10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】CO <sub>2</sub> の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり (¥182)		【2位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり (¥141)			
	【3位】避難地や防災拠点として災害時の生活を復旧・支援するみどり (¥121)		【4位】水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり (¥118)			

# みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表面 浸透量 (mm/日)	雨水の 地表面 排水量 (mm/日)	地表面 温度 (℃)	炭素 固定量 (t/ha/年)	生物指標 の 多様度 (%)	豊か・魅力 と 感じる みどりの 回答数 (件)	農業活動 空間 面積率 (%)	散策路・歩 道の長さ (m/ha)	必要公園面 積に対する 現況公園の 過不足面積 (ha)	イベント開 催に供する オープンス ペース面積 (㎡/人)	非水害時に おける一人 あたりの避 難有効面積 (㎡/人)	水害時に おける一人 あたりの避 難有効面積 (㎡/人)
西部	東弁財1丁目	0.18	2.17	34.67	0.09	11.45	0.21	0.0%	293.4	-9.39	1.95	1.60	1.60
	東弁財2丁目	0.57	1.45	34.06	0.73	24.17	2.29	9.3%	74.0	-5.68	6.94	2.17	1.43
	東弁財3丁目	0.67	1.64	34.27	0.26	21.49	1.20	0.6%	70.3	-5.16	3.23	3.11	2.10
	西弁財1丁目	0.51	1.77	34.58	0.13	16.89	1.21	0.0%	101.3	-4.61	1.07	1.51	1.51
	西弁財2丁目	0.35	2.04	34.73	0.12	14.71	0.23	0.0%	257.4	-8.92	0.59	1.62	1.62
	三原1丁目	0.64	1.71	34.42	0.42	23.36	1.24	3.1%	70.6	-6.61	0.39	1.59	1.59
	三原2丁目	0.72	1.59	34.46	0.36	24.57	0.72	2.8%	52.3	-7.95	0.57	0.93	0.93
	三原3丁目	0.91	1.32	34.12	0.62	29.13	1.05	3.8%	61.2	-6.57	0.76	0.84	0.84
	三原4丁目	0.62	1.52	34.65	0.20	25.69	0.37	0.0%	28.0	-7.76	1.04	1.02	1.02
	三原5丁目	0.72	1.58	34.20	0.60	23.73	1.40	9.1%	33.3	-4.56	0.56	0.71	0.71
	泉水1丁目	0.74	1.70	34.27	0.79	19.83	2.12	11.6%	103.8	-2.08	3.22	2.27	3.63
	泉水2丁目	0.83	1.44	33.80	1.13	25.97	2.71	15.8%	42.3	-3.54	5.68	3.53	3.32
	泉水3丁目	0.75	1.55	33.89	0.97	26.62	1.53	4.2%	57.8	-3.85	3.94	4.20	1.78
	膝折町3丁目の一部	0.78	1.45	33.96	0.89	25.95	14.65	5.0%	16.3	-1.58	7.56	2.09	3.88
	膝折町4丁目の一部	0.48	1.69	33.93	0.72	22.79	21.96	2.0%	56.1	-3.57	6.98	3.87	5.14
	大字浜崎の一部	0.70	0.51	32.07	3.11	40.82	41.28	56.7%	46.9	0.35	10.96	4.07	0.43
	大字溝沼の一部	0.78	0.82	32.58	1.97	31.69	56.08	27.7%	49.0	0.24	8.33	5.85	2.17
地域全体	0.69	1.50	33.99	0.80	25.04	9.17	8.0%	65.9	-4.55	3.58	2.64	2.02	
朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95	

## グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	段丘の上では建物や住宅が多く、雨水が地面にしみこみにくい状態です。一方、畑や公園などの土がある場所ではよくしみ込むため、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。
都市の気温上昇を抑えるみどり	建物や住宅が多いため、全体的に地面の温度が高いです。しかし、黒目川沿いは涼しい風の通り道になっており、斜面林など木々がある場所はクールアイランドとして、ヒートアイランド現象を和らげるのに役立っています。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	建物や住宅が多いため、みどりの量が少なく、二酸化炭素を吸収するチカラが弱いです。しかし、段丘の斜面林や黒目川の草地、浜崎・溝沼などの農地は、二酸化炭素を吸収する大切な役割を果たしています。
生き物の生息空間となるみどり	黒目川にはたくさんの種類の生き物が生息しています。そのほかに斜面林や公園・学校の木々、小さな畑などがあり、崖の下には湧き水も出るため、まちの中にも小さな生き物のすみかがつくられています。
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	黒目川は、豊かで魅力的なみどりとして最も人気があります。ほかにも島の上公園や南割公園、畑、並木道、里山、個人の庭のみどりなども、地域の風景として親しまれています。一方で、みどりの風景が少ない場所もあります。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	浜崎から溝沼にかけて、まとまった農地が広がっています。また、泉水などのまちなかにも小さな農地が点在し、みどりが少ない三原周辺にも農地が残されています。
健康づくりの場となるみどり	黒目川沿いは、ジョギングや散歩のコースとして親しまれています。北朝霞駅の周辺や大きな通りでは歩道が整備されていますが、駅から離れた場所では十分に整備されていない状況です。
身近な遊び場となるみどり	まちなかでは、人口の増加に公園の整備が追いついておらず、全体的に不足しており、特に三原から東弁財にかけて不足しています。黒目川などを遊び場として活用していくことが期待されています。
にぎわいや交流の場となるみどり	イベントができるような広場が足りません。新しい場所をつくることや、今ある公園などをうまく活用して、交流の場を充実させることが大切です。
防災拠点となるみどり	三原では、災害時の拠点となるような公園が不足しています。

## 西部地域のみどりの方針

### 主な課題

- 《都市を支えるグリーンインフラの充実》 建物や道路などが多く、雨水が地面にしみ込みにくいいため、大雨の際に雨水が一気に流れ出す心配があるほか、ヒートアイランド現象も課題となっています。グリーンインフラの考え方を取り入れたまちづくりが重要になります。
- 《身近な公園の不足》 市民アンケート結果においても公園に対する満足度が低く、量と質を充実させていく必要があります。特に三原や東弁財エリアでは公園が不足しており、身近な公園がほしいという声が非常に強くなっています。
- 《安全で快適な歩行者ネットワークの構築》 駅から離れた地域では歩道が十分に整備されておらず、誰もが安全に歩ける空間の確保が課題です。
- 《黒目川の保全と活用》 朝霞のみどりを象徴する黒目川は、その優れた自然環境を守りながら、魅力を高め、次の世代へ引き継いでいくことが求められます。
- 《防災機能の強化》 災害時の拠点となる公園が不足しており、特に三原などでその課題が大きくなっています。
- 《市民参加のきっかけづくり》 みどりの活動に参加したことがある人が少ない傾向にあります。みどりへの愛着を育み、市民の皆さんが主役となってまちづくりに参加するきっかけが必要です。

### 主な取組

#### ① グリーンインフラでまちの環境を良くする

- a. 夏の暑さを和らげたり、地下水を蓄えたりするなど、グリーンインフラの視点を取り入れたまちづくりを目指します。
- b. 公園などの公共施設において、雨水を地面にしみ込ませる機能を充実させます。また、民間事業者等が行う開発においても、雨水を貯めたりしみ込ませたりする施設をつくるよう働きかけるなど、グリーンインフラの取組を進めます。

#### ② 暮らしを支える身近なみどりをつくる・育てる

- a. 身近な公園が不足しているため、今ある公園を充実させることや、市民緑地制度などの新しい仕組みの導入を検討しながら、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場の充実を目指します。
- b. 新たな道路の整備にあわせて、歩道や街路樹を充実させ、誰もが安全で快適に歩きたくなるまちづくりを目指します。

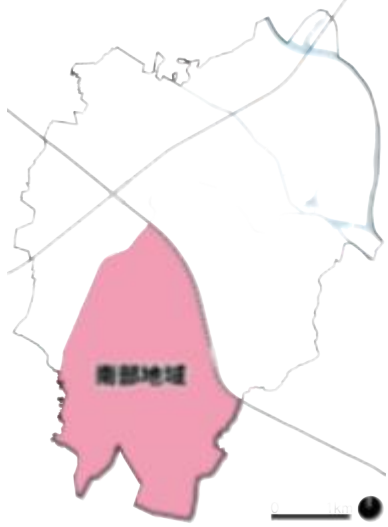
#### ③ 市民協働でみどりを育む文化を醸成する

- a. 公園が少ない西部地域において、黒目川は貴重なみどりの空間です。保全活動を支援するとともに、自然観察会やイベントなどを通じて、地域の自然の価値を再発見し、みどりへの愛着を深めるきっかけをつくります。
- b. 公園の清掃や花壇づくりなどのボランティア活動を支援し、協力して維持管理を行うふれあいの輪を広げていきます。
- c. みどりの活動に関心のある人が集まり、楽しく学べるワークショップなどを開催し、地域のコミュニティを盛り上げます。

# みどりの方針図



## 南部地域

面積		人口		みどり率		
5.3km <sup>2</sup>		53,204人		26.6%		
市民アンケート調査	問1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している	0.41 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>			
		d.お住いの近くの公園に満足している	0.29 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>			
		g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある	0.22 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>			
		h.良いまちの景観がつけられている	0.34 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>			
	問2 豊か・魅力的と感じるみどり	黒目川 (331件)、青葉台公園 (116件)、シンボルロード (115件)、朝霞の森 (106件)、市役所周辺 (48件)、朝霞中央公園 (43件)、滝の根公園 (35件)、公園通り (29件)、基地跡地 (15件)、朝霞駅周辺 (5件)、広沢の池 (3件)				
	問3 将来に残したいと思うみどり	朝霞の森 (158件)、黒目川 (154件)、青葉台公園 (55件)、シンボルロード (42件)、基地跡地 (34件)、滝の根公園 (27件)、公園通り (14件)、朝霞中央公園 (13件)、市役所周辺 (9件)、朝霞駅周辺 (3件)、広沢の池 (3件)				
	問4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	35.9回 (市全体 30.9回)				
	問5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	0.19 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>	b.安全に遊べる遊具が充実している	0.16 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>	
		c.公園の植物がよい景観をつくっている	0.37 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>	h.近くの住民によく利用されている	0.51 <small>(そう思わない-1.0~1.0そう思う)</small>	
	問6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する (18.8%)		【2位】だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を充実させる (14.0%)		
【3位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる (11.8%)		【4位】民間の協力を得て、魅力的な公園的空間を整備し運営する (8.2%)				
問7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1位】全てに参加したことがない (14.5%)		【2位】道路などの清掃活動 (10.2%)			
	【3位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化 (10.1%)		【4位】身近な生き物観察やみどりの調査 (6.5%)			
問10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】CO <sub>2</sub> の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり (¥156)		【2位】水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり (¥142)			
	【3位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり (¥118)		【4位】避難地や防災拠点として災害時の生活を復旧・支援するみどり (¥115)			

# みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表面 浸透量 (mm/日)	雨水の 地表面 排水量 (mm/日)	地表面 温度 (℃)	炭素 固定量 (t/ha/年)	生物指標 の多様度 (%)	豊か・魅力 と感ずる みどりの 回答数 (件)	農業活動 空間 面積率 (%)	散策路・歩 道の長さ (m/ha)	必要公園面 積に対する 現況公園の 過不足面積 (ha)	イベント開 催に供する オープンス ペース面積 (㎡/人)	非水害時に おける一人 あたりの避 難有効面積 (㎡/人)	水害時にあ たる一人あ たりの避難 有効面積 (㎡/人)
南部	本町1丁目	0.70	1.61	34.34	0.40	20.62	1.71	2.6%	97.4	-3.06	3.07	4.20	4.19
	本町2丁目	0.68	1.68	34.71	0.14	17.19	0.47	0.0%	73.6	-6.44	3.11	2.92	2.92
	本町3丁目	0.88	1.42	33.69	0.99	27.05	3.04	13.5%	159.6	-1.15	5.49	6.56	6.55
	栄町1丁目	0.77	1.46	34.23	0.41	25.37	1.27	1.8%	32.8	-3.81	4.97	7.14	7.14
	栄町2丁目	0.70	1.55	34.24	0.55	26.58	1.13	4.9%	66.9	-6.82	1.21	2.51	2.51
	栄町3丁目	0.52	1.99	34.50	0.37	21.01	0.61	0.0%	129.4	-6.30	5.44	9.16	9.16
	栄町4丁目	0.46	2.05	34.32	0.12	19.43	0.36	0.0%	256.7	-2.30	3.04	6.78	6.78
	栄町5丁目	0.88	1.59	34.01	0.44	20.55	0.86	0.3%	161.9	4.08	11.91	26.02	26.02
	幸町1丁目	0.83	1.47	34.22	0.48	24.69	1.13	5.9%	97.9	-1.67	8.65	14.26	14.26
	幸町2丁目	0.77	1.53	34.41	0.28	25.62	0.48	0.0%	85.0	-3.92	4.45	21.22	21.22
	幸町3丁目	0.97	1.46	33.66	0.92	23.42	1.56	0.1%	97.4	0.04	8.30	39.77	39.77
	膝折町1丁目	0.94	1.33	34.18	0.69	26.36	1.61	10.5%	23.1	-4.20	3.35	4.59	4.69
	膝折町2丁目	0.58	1.56	33.81	0.86	25.99	12.16	5.7%	108.7	-2.56	6.23	12.80	12.80
	膝折町3丁目の一部	0.37	1.54	33.63	0.59	23.73	80.94	0.0%	22.1	-1.96	5.77	0.91	2.14
	膝折町4丁目の一部	0.77	1.27	33.99	0.64	22.96	21.78	5.4%	23.7	-3.87	5.70	3.25	3.88
	膝折町5丁目	0.99	1.24	33.97	1.22	25.04	2.99	26.7%	4.3	-2.36	3.94	5.13	5.20
	溝沼1丁目	0.75	1.50	34.32	0.61	25.70	1.27	6.5%	53.1	-1.76	4.74	4.76	4.76
	溝沼2丁目	0.80	1.37	33.83	1.03	30.57	7.48	7.5%	92.7	-4.81	2.08	2.23	1.35
	溝沼3丁目	0.87	1.22	34.14	0.76	26.59	1.58	6.4%	10.2	-4.45	4.90	4.82	3.19
	溝沼4丁目	0.50	1.55	34.30	0.49	24.12	0.97	4.3%	35.8	-5.61	7.58	6.54	1.91
	溝沼5丁目	0.63	1.33	33.90	0.77	31.27	1.71	8.0%	67.7	-6.33	3.01	3.53	1.72
	溝沼6丁目	0.49	1.33	34.01	0.78	31.76	1.37	5.0%	49.4	-4.17	3.58	2.75	1.97
	溝沼7丁目	0.39	1.31	34.07	0.58	27.31	1.24	6.3%	44.8	-5.07	8.98	3.32	0.32
	大字溝沼の一部	0.60	0.87	32.76	1.65	31.29	63.33	18.6%	66.3	0.04	9.44	6.02	0.96
	青葉台1丁目	1.28	1.22	32.46	2.01	38.12	38.31	1.0%	226.0	10.98	18.69	33.89	33.89
	大字膝折	1.99	0.46	30.90	3.51	48.83	55.49	0.0%	195.7	12.76	25.05	42.47	42.47
	自衛隊	1.42	1.07	32.60	1.92	37.07	2.81	0.0%	26.8	1.61	64.50	81.92	81.92
	自衛隊	1.95	0.50	31.61	3.47	46.70	2.32	0.0%	10.7	0.44	32.32	58.74	58.74
	自衛隊	1.42	1.03	32.53	1.78	37.95	2.72	0.1%	13.4	2.97	142.55	144.83	144.83
	地域全体	0.97	1.28	33.49	1.19	29.50	9.82	4.0%	78.6	-0.79	21.62	28.79	28.36
	朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	建物が増えていますが、基地跡地や朝霞駐屯地、畑などでは、雨水がよく浸み込み、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。
都市の気温上昇を抑えるみどり	住宅が増えて地面の温度が高くなりやすいですが、基地跡地や朝霞駐屯地は涼しい場所になっており、ヒートアイランド現象を和らげるのに役立っています。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	まちが発展する中でも、基地跡地や朝霞駐屯地にある森や草地は、二酸化炭素を吸収しています。しかし、雑木林ではナラ枯れという病気の被害が増えていていることが課題です。
生き物の生息空間となるみどり	基地跡地や朝霞駐屯地にある森や草地には、たくさんの種類の生き物が暮らしていると考えられ、生き物の移動ルートの一部として大切な役割を果たしています。
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	黒目川や基地跡地の周りがあるみどりの風景は、とても人気があります。公園や畑、並木道なども地域のみどりとして親しまれていますが、みどりが少ない場所もあります。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	溝沼や膝折町、本町3丁目のあたりには畑が点在しており、身近な場所で農業に触られる環境が残されています。
健康づくりの場となるみどり	朝霞駅から基地跡地の周辺は、並木道や遊歩道が整備され、健康づくりに役立っています。一方で、歩きやすい歩道が十分につながっていない地域もあります。
身近な遊び場となるみどり	基地跡地の周辺や、和光市・練馬区に近い地域は公園が充実していますが、それ以外の地域では公園が不足しています。
にぎわいや交流の場となるみどり	朝霞の森などではイベントが開かれ、交流の場になっています。しかし、ほかの場所ではイベントができる広場が足りないため、今ある公園などをうまく活用することが大切です。
防災拠点となるみどり	青葉台公園や朝霞中央公園など、大きな公園があるため、災害時の拠点となる場所は概ね確保できています。

## 南部地域のみどりの方針

### 主な課題

- 《大規模なみどりを守り、維持する》 基地跡地などの大きなみどりは、まちの気温上昇を抑え、二酸化炭素を吸収する、まさに都市の肺のような存在です。この貴重な環境を適切に管理し、その機能を維持していくことが欠かせません。
- 《みどりのバランスを整える》 基地跡地周辺には大きな公園が集中していますが、それ以外の住宅地では身近な公園が不足しており、みどりの量に偏りが見られます。
- 《みどりのネットワークの形成》 みどり豊かで安全な歩道を望む声が多くなっています。本町や溝沼では、誰もが安心して歩ける道の整備が求められています。
- 《都市を支えるグリーンインフラの充実》 基地跡地周辺のまとまったみどり以外は、建物や道路など、水が地面にしみこみにくい場所が多くなっています。そのため、大雨の際に雨水が一気に流れ出す心配があるほか、ヒートアイランド現象も課題です。まちづくりにおいてグリーンインフラの考え方が重要になります。
- 《コミュニティの場の形成》 大きな公園以外に、地域の皆さんが気軽に集まれるような広場が少なく、地域の人たちのつながりを深める上での課題となっています。
- 《樹林地の保全》 樹林地は貴重な自然環境です。これを残すとともに、将来にわたって良い状態が続くよう、管理していくことが求められます。

### 主な取組

#### ① 大きなみどりを守り、その価値を高める

- a. 基地跡地一帯の緑地は、朝霞のまちのグリーンインフラの要として、公園としての整備を進めたり、みどりが持つ様々な機能を守ったりします。
- b. 朝霞の森の周辺では、貴重なみどりを環境学習やにぎわいの場として活用するなど、その価値を共有し、未来へ引き継いでいくための取組を進めます。

#### ② みどりの恵みを地域全体に広げる

- a. 公園が不足している住宅地において、計画的に公園等を確保できないか検討し、みどりの配置のバランスを整えます。
- b. 駅の周辺では、ウォーカブルな空間づくりを進めます。また、大きな緑地と住宅地をみどり豊かな歩道などでつなぎ、誰もが安全にみどりの恵みに触れられるネットワークをつくります。その際、ベンチやポケットパークなどを設け、ひと休みできる空間を充実させます。

#### ③ グリーンインフラで暮らしの安全と快適性を高める

- a. この地域には公共空間が多く、これらが水循環や暑さ対策、生き物の保全などに役立っています。引き続き、グリーンインフラの視点を大切にしまちづくりを進めます。
- b. 農地や林を守るほか、民有地における緑化や、雨水を貯めたりしみ込ませたりする施設の設置を働きかけます。また、みどりのカーテンの普及などを通じて夏の暑さを和らげるとともに、小さな広場をつくるなど、コミュニティづくりにつながる取組を応援します。
- c. これらの取組により、大雨による浸水被害を防いだり、湧水を守ったり、ヒートアイランド現象を和らげたりすることを目指します。

# みどりの方針図





## 7章 計画の実現に向けて

---

# 1 計画の推進体制

本計画の基本理念である「朝霞らしいみどりを みんなで育み 暮らしに生かすまち」を実現するためには、市民、ボランティア活動団体、民間事業者、学校、行政など、朝霞に関わるすべての人たちが一体となって取り組むことが大切です。本計画で位置づけた取組は、各主体が自らの役割を理解し、協力し合いながら推進していくものとしします。

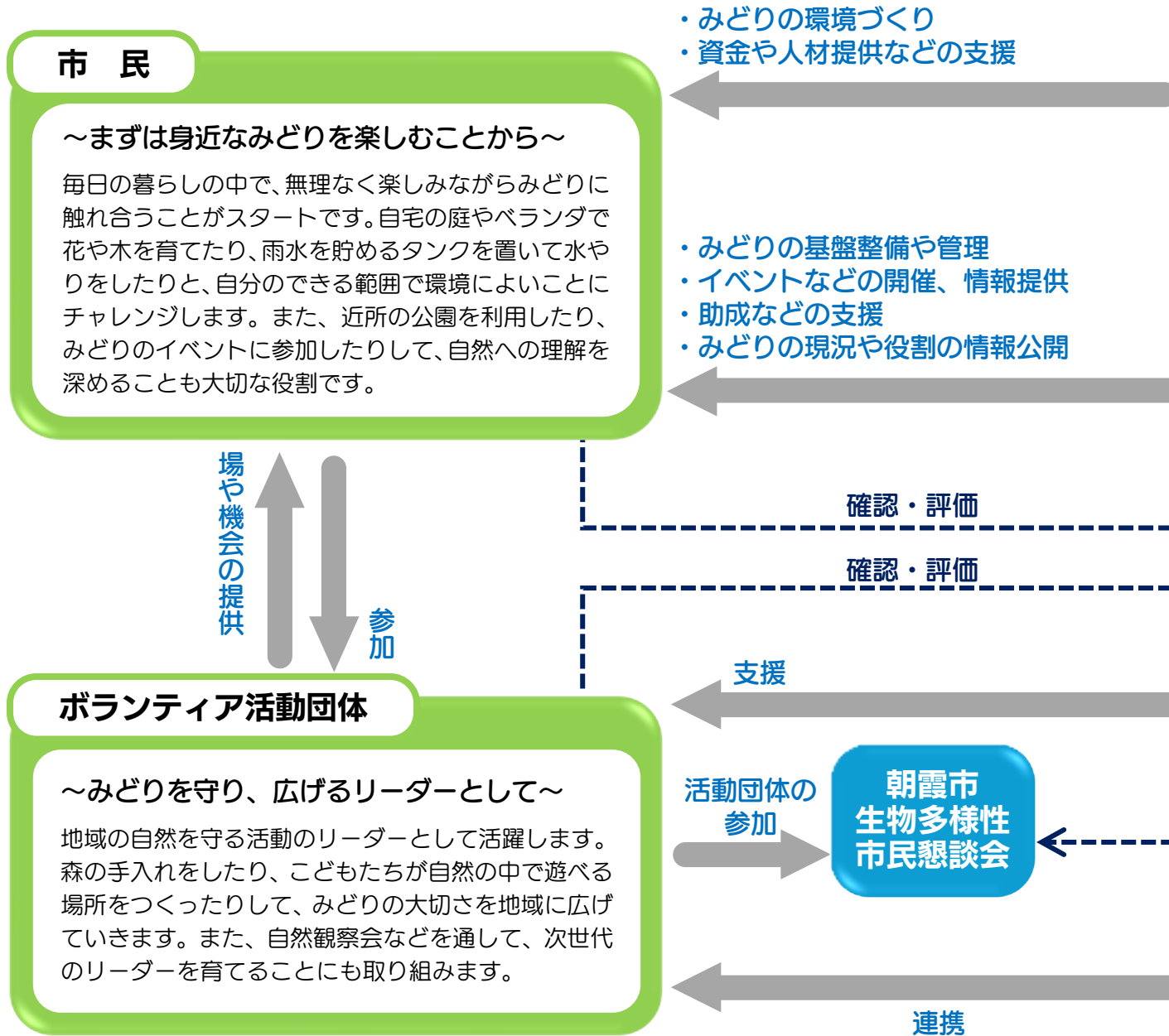
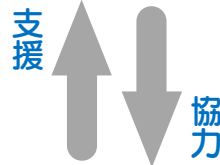


図 7-1 計画の推進体制

## 民間事業者（会社など）

### ～技術や力を生かしてまちに貢献する～

会社の敷地に木を植えたり、雨水が地面にしみ込みやすくする工夫をしたりして、まちの環境づくりに協力します。また、会社が持つ技術や資金、人の力を生かして、環境イベントを応援したり、ボランティア活動に参加したりと、地域社会の一員として貢献します。



## 行政（市役所）

### ～活動を支え、みんなをつなぐ～

公園や道路の街路樹など、まちの基盤の整備や管理を行います。また、市民や活動団体をサポートしたり、人と人をつなぐ調整役になったりと、各主体が持つ力が十分に発揮されるように、土台をしっかり支えます。また、みどりの状況を定期的に調べて、皆さんに情報を伝えていきます。

市内連絡調整組織・事務局

協力

しもん とうしん  
諮問・答申<sup>34</sup>

素案提案  
進捗報告



## 学校・専門家

### ～学びを生かし、未来へつなぐ～

大学などは、専門的な知識を生かして、朝霞のみどりについて調べたり、より良くするためのアドバイスをしたりします。小・中・高等学校では、授業や部活動などを通じて、若い世代がみどりに親しみきっかけをつくります。こどもたちが自然の大切さを学ぶことは、未来の朝霞のみどりを守ることに繋がります。

確認・評価

朝霞市  
緑化推進  
会議

確認・評価  
・生き物調査  
・緑地維持管理活動等連携

情報共有  
提案

34 諮問は、国や自治体が、専門家や市民の代表からなる機関に意見を求めることです。答申は、諮問を受けた機関が、検討した結果を公式な意見として返すことです。

## 2 計画の進行管理

### (1) 進行管理を図るための目標設定

行政、市民、民間事業者などが共通のゴールを見据え、着実に取組を進めていく必要があります。そこで、計画の進捗を客観的に見える化し、効果的な進行管理を行うための指標として、全体目標と個別目標を掲げます。

#### ① 全体目標

まち全体のみどりに関する現況を数値で把握し、全体目標を設定します。みどりの量を示す緑地率や整備水準に加え、みどりの質や関わりを示す満足度や利用頻度を指標として設定します。

表 7-1 全体目標

目標項目	目標設定の考え方	現況値 令和 7 (2025) 年度末	目標値 令和 17 (2035) 年度末
みどりの満足度 <sup>35</sup>	みどりの量だけでなく、みどりがどれだけ愛され、心地よい空間となっているかという質を測るため、満足度を目標とします。	+0.29	+0.30
市域に占める緑地率 <sup>36</sup>	私たちの暮らしを支えるみどりは、年々減少傾向にあります。このかけがえのない財産を守り将来へ残していくため、市全体のみどりの量を確保する目標を定めます。	21.5%	22.3%
都市公園の整備水準 <sup>37</sup>	誰もが身近にみどりを感じられる、安全で快適なまちづくりを実現するため、憩いや防災、自然との触れ合いの拠点となる都市公園の充足を目標とします。	2.13 m <sup>2</sup> /人	3.16 m <sup>2</sup> /人
公園の利用頻度 <sup>38</sup>	公園は整備するだけでなく、使われてこそ価値が生まれます。公園が利用しやすく、魅力的な空間になっているのかを、活用の視点から把握するため、利用頻度を目標とします。	30.9 回/年	31.9 回/年

35 みどりの市民アンケート調査における問 1-a「朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している」の回答（「そう思う (+1.0)」～「そう思わない (-1.0)」までの5段階評価）の平均。

36 都市公園、学校などの公共施設の植栽地、社寺などの民有地の植栽地、特別緑地保全地区や保護地区、生産緑地などの法律や条例で守られている緑地などのすべての緑地面積が市域に占める割合。

37 市内の都市公園の総面積を市の人口で割った一人当たりの都市公園面積のこと。

38 みどりの市民アンケート調査により得られる公園の年間利用回数の平均。

## ② 個別目標（重点施策の目標）

重点施策の達成状況を測る個別目標を設定します。特別緑地保全地区の拡大や新たな公園整備といったハード面の取組から、ガイドラインの策定やデジタル活用といったソフト面の取組まで、施策ごとの具体的な目標を掲げます。計画目標は10年間の計画期間内で着実な実行を図るもの、将来目標は計画期間内に実行に努め、その後実現したい大きなものを掲げています。

表 7-2 個別目標（重点施策の目標）

施策の柱	重点施策	計画目標	将来目標
1-1 樹林地と農地の保全	(1) 樹林地等の担保性の向上	特別緑地保全地区の指定面積拡大 約 2.7ha (現況値+0.6ha)	特別緑地保全地区の指定面積拡大 約 3.6ha (現況値+1.5ha)
	(2) 里山保全活動の推進	里山管理ガイドラインの策定・運用	里山管理ガイドラインの運用による良好な自然環境の保全
1-2 水辺の保全	(1) 湧水の保全	雨水貯留浸透施設等の設置推進	水循環の健全化による湧水源の涵養
1-3 公園の整備と管理	(1) 公園の整備推進	まぼりみなみ公園の整備 内間木公園の拡張整備	基地跡地公園の整備
	(3) 公園の維持管理の充実	公園等植栽管理指針の策定・運用	公園等植栽管理指針の運用による質の高い空間の創出
1-4 道路・河川のみどりの育成	(2) ウォーカブルな空間形成	人中心の北朝霞駅北口広場への転換	朝霞駅周辺及び北朝霞・朝霞台駅周辺のウォーカブルな空間形成
2-1 みどりの担い手の育成と連携	(2) 担い手の連携の拡充	Park-PFI 事業者による内間木公園の運営	Park-PFI 事業者による基地跡地公園の運営
2-4 みどりの支援体制の強化	(1) 財源の確保と活用	機能維持増進事業の活用	多様な手法による財源の確保
	(2) みどり・公園分野における DX の推進	公園台帳のデジタル化	DX の推進による効率的な公園管理
3-1 みどりのシティプロモーションの展開	(2) 情報発信の強化と充実	自ら情報発信できるオンラインプラットフォームの導入	市民が主体となったみどりの情報発信
3-2 みどりのある暮らしの実践	(1) みどりを楽しむ	グリーントレイルマップの更新	みどり資源を生かした健康増進の場づくり

## 2 計画の進行管理

### (2) グリーンインフラの多面的効用のモニタリング

みどりを単に保全・創出するだけでなく、グリーンインフラの多面的効用が十分に発揮されているかを継続的に把握・検証する必要があります。そのため、定期的な調査や科学的なシミュレーション、市民協働によるデータ収集を組み合わせたモニタリングを実施し、客観的な根拠に基づくまちづくりを進めます。

#### ① モニタリングの実施手法

みどりの量だけでなく、防災や環境調整、コミュニティ形成といったみどりの質や機能を把握するため、以下の手法を用いて多角的なデータを収集します。

表 7-3 モニタリングの実施手法

みどりの調査	おおむね5年ごとに実施する「緑被率経年変化調査」および「みどりの市民アンケート調査」により、みどりの基礎データと市民意識の変化を定点観測します。
科学的シミュレーション	雨水浸透や地表面温度など、目に見えにくい機能については、地理情報システム等を用いたシミュレーションにより数値を算出します。
市民・ボランティアとの連携	市民参加型の生き物調査などを実施し、身近な自然の変化をきめ細かく捉えます。
見える化の推進	収集したデータをもとにグリーンインフラマップを作成・更新し、みどりの機能をわかりやすく可視化します。

## ② 分析指標の設定と活用

収集したデータを基に、みどりが持つ多面的効用が発揮されているかを検証するため、下表の分析指標を設定します。これらの指標を用いて、町丁目ごとの詳細な状況を把握し、地域ごとの特性に合わせた施策の検討や、優先的に取り組むべきエリアの特定に活用します。

表 7-4 グリーンインフラの分析指標

評価項目	評価指標	内容
健全な水循環を支えるみどり	雨水の地表面浸透量 (mm/日)	水循環シミュレーションにより算定された地表面浸透量
	雨水の地表面排水量 (mm/日)	水循環シミュレーションにより算定された地表面排水量
都市の気温上昇を抑えるみどり	地表面温度 (°C)	GI タイプの分布とランドサット衛星観測データより作成した輝度温度との回帰分析による推測地表面温度
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	炭素固定量 (トン/ha/年)	GI タイプにおける純生産量の算定を介した年間の炭素固定量の算定
生き物の生息空間となるみどり	生物指標の多様度 (%)	34の生物指標を分母としたGIタイプで生息が想定される生物指標の数の割合
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	豊か・魅力的と感じるみどりの回答数 (件)	市民アンケート調査において抽出された豊か・魅力的と感じるみどりの回答数
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	農業活動空間面積率 (%)	耕作地及び休耕地の50%の面積を評価単位空間面積で除したもの
健康づくりの場となるみどり	散策路・歩道の長さ (m/ha)	公園緑地等の遊歩道と道路の歩道の長さ
身近な遊び場となるみどり	必要公園面積に対する現況公園の過不足面積 (ha)	半径500m以内の人口に近隣住区モデルの住区基幹公園標準面積(4ha)を乗じた必要面積に対する現況の都市公園等の過不足面積
にぎわいや交流の場となるみどり	イベント開催に供するオープンスペース面積 (㎡/人)	評価地点から500m以内における1000㎡以上の都市公園やイベント開催に供するオープンスペースの一人当たりの面積
避難地や防災拠点となるみどり	非水害時における避難有効面積 (㎡/人)	評価地点から500m以内における学校や1000㎡以上の都市公園等における一人当たりの避難有効面積
	水害時における避難有効面積 (㎡/人)	

## 2 計画の進行管理

### (3) 定期的な進行管理と計画の見直し

#### ① PDCA サイクルによる進行管理

これらの分析指標によって得られた結果は、まちづくりの次なる施策へ生かします。例えば、雨水浸透機能が低いエリアでは雨庭の設置を重点化する、気温が高いエリアでは木陰を増やすなど、データに基づいて施策の方向性を修正・決定することで、限られた予算と資源で最大限の効果を引き出す順応的な管理を行います。

また、社会情勢の変化やグリーンインフラの多面的効用の検証結果を的確に反映させるため、「P（計画）－D（実行）－C（評価）－A（改善）」のサイクルにより、継続的な改善を図ります。

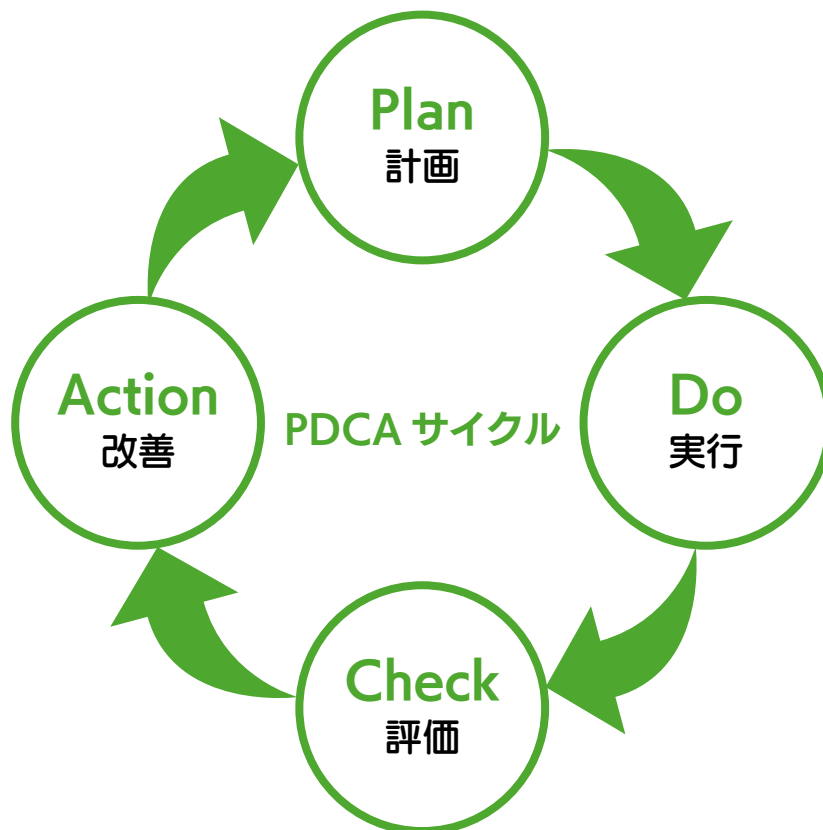


図 7-2 PDCA サイクルによる進行管理

## ② 計画の進行管理と見直し

年度ごとに事業進捗を整理し、朝霞市緑化推進会議において検証を行います。

また、社会情勢の変化や、気候変動の影響、技術革新のスピードに対応するため、調査結果などに基づいて柔軟に計画の見直しを行うローリング方式<sup>39</sup>を採用します。

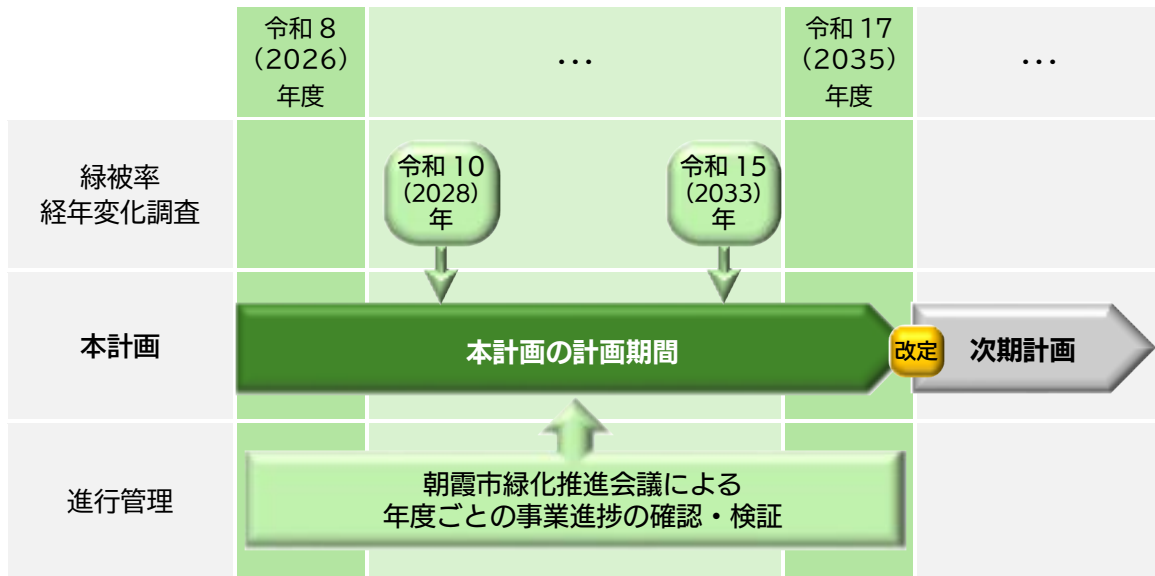


図 7-3 定期的な計画の見直し

本市のみどりの基礎データである緑被率経年変化調査は、5年ごとに実施しており、本計画期間中は、令和 10 (2028) 年度と令和 15 (2033) 年度に実施予定です。この調査により、みどりの量の変化や、施策の効果を客観的な数値として把握します。

計画期間の終盤に実施する令和 15 (2033) 年度の緑被率経年変化調査の結果は、令和 18 年度以降の次期計画策定に向けた基礎資料として活用します。

また、緑被率経年変化調査の実施にあたっては、技術の進歩やグリーンインフラの分析目的に応じ適切なデータの取得を検討します。

<sup>39</sup> 計画の策定後、固定的に運用するのではなく、一定の期間ごとに計画内容の見直しを行う手法のこと。社会情勢の変化や、事業の進捗状況、財政状況などを踏まえ、計画と実態との乖離を防ぐために修正・補正を加えることで、計画の実効性を維持・向上させることを目的としています。

